P-touch Template Manual

機種名　MW-145BT/MW-260/PJ-623/PJ-663

＜作成＞ ブラザー工業株式会社

対応モデル: MW-145BT/MW-260/PJ-623/PJ-663

ご注意

本資料は、お客様が直接対応モデルを制御される場合に必要な情報を提供するものです。
お客様が以下の内容にご同意いただいた場合のみ、本資料のご利用が可能です。もしご同意いただけない場合は、お客様は本資料をご利用いただけません。

ご利用条件

お客様は、お客様ご自身が対応モデルをご利用いただくため（以下「本目的」といいます）に必要な範囲においてのみ、本資料を使用し、複製することができるものとします。なお、お客様は次のことを行ってはならないものとします。

（1） 本目的以外の目的で本資料を複製すること
（2） 本資料を改変し、翻案・翻訳し、または第三者に再頒布すること
（3） 本資料を第三者に貸与・提供すること
（4） 本資料に含まれるブラザーの権利に関する表示を削除・改変すること

無保証

（a） 対応モデルおよび本資料のバージョンアップや修正等はブラザーが任意で行うものとし、お客様からの本資料の内容に関するお問い合わせまたはご要望に対しては一切応じかねます。
（b） ブラザーは本資料に関し、明示または黙示であるかを問わず、瑕疵がないこと、特定の目的に適合することを含め、その他いかなる保証も行いません。
（c） ブラザーは本資料および本資料に基づきお客様が作成したプログラムに起因して発生した直接的または間接的損害について、お客様に対し、いかなる責任も負わないものとします。

以上

【目次】

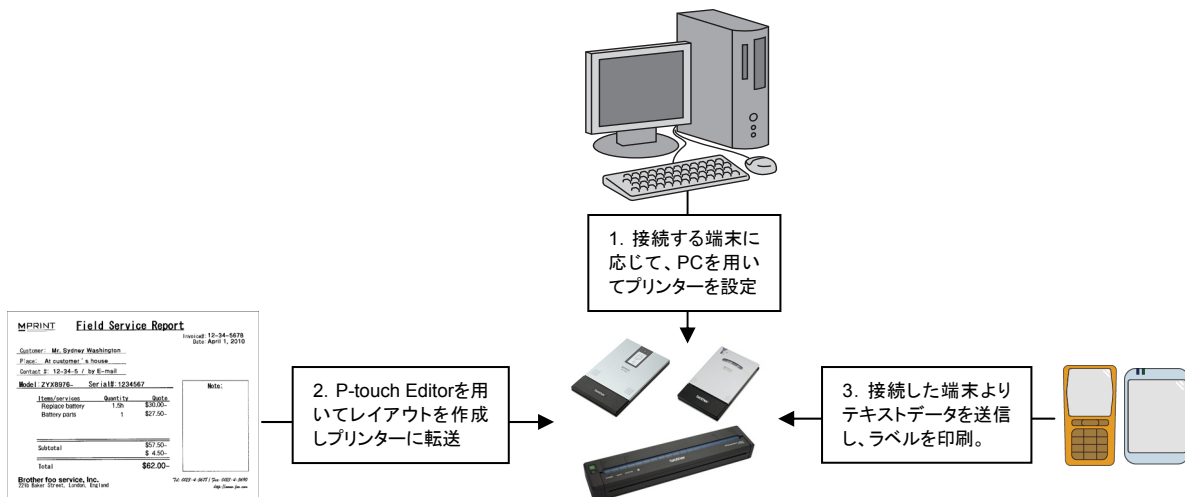
はじめに

本書は MW-145BT/MW-260/PJ-623/PJ-663 へ転送したレイアウトにデータを流し、PC 以外の端末を直接制御して印刷する方法が記されています。

本書は、お客様の開発環境におけるプログラミングに関しての知識がある方への説明書となっております。万一、本書を元にプログラムを開発したにもかかわらず、MW-145BT/MW-260/PJ-623/PJ-663及び、P-touch Templateを用いたシステムなどのデータが消えたり変化した場合、生じた損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求につきましても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。加えて、本書はいかなる請求の証拠にもなり得ませんので、あらかじめご了承ください。

また、本書の内容の一部または全部を無断で複写、転載することは禁じられています。

P-touch Templateとは？

P-touch Template とは、接続した端末より、送られてきたテキストデータをMW-145BT/MW-260/PJ-623/PJ-663 に保存しているレイアウトのテキストオブジェクト、バーコードオブジェクトに反映させることが出来るツールです。

P-touch Template はPC無しでの印刷を可能にし、また手間無く帳票等のデータのみを変更できるツールです。

接続を想定するホスト端末は、下記の様なものです。

－スマートフォン

－携帯電話

－ハンディターミナル　　　　など

※　注意：

- 接続が可能な端末には、データを転送するためのインターフェイスが必要です。
- 端末によっては、データを転送できないものもございます。

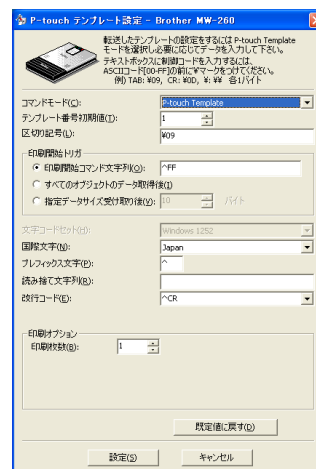
P-touch Templateの使い方

※プリンターのイメージ画像は
お使いのプリンターによって異なります。

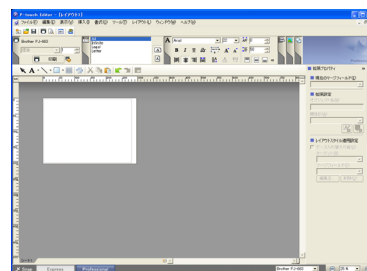
1. プリンター本体設定

MW-145BT/MW-260/PJ-623/PJ-663 の接続先の環境や接続端末に合わせて、「P-touch テンプレート設定」を作動させて、MW-145BT/MW-260/PJ-623/PJ-663 のプリンター本体をセットアップします。

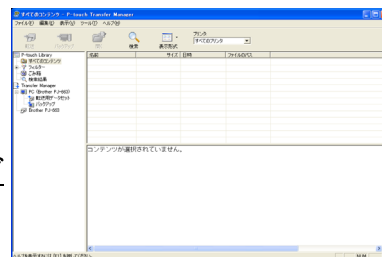
（本書の設定ツール説明書をご参照ください。）

*あらかじめ USB 接続によりプリンタードライバーをインストールしてください。

2. レイアウトの作成

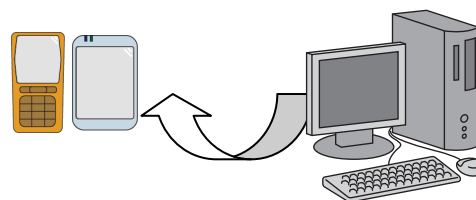
P-touch Editor でプリンター本体に転送するレイアウトを作成します。

（本書のP-touch Template 制限事項をご参照ください。）

3. レイアウトの転送

P-touch Transfer Manager を使用して、レイアウトをプリンター本体に転送します。

（MW-145BT/MW-260/PJ-623/PJ-663 のソフトウェアユーザーズガイドをご参照ください。）

4. P-touch Template コマンドによるプログラム

プリンター本体を制御するために特別なコマンドが必要であれば、P-touch Template コマンドリファレンスに従って接続する端末のプログラムを変更してください。

（本書のP-touch Templateコマンドリファレンスをご参照ください。）

5. 端末との接続から印刷

接続する端末からテキストデータをプリンター本体へ送り、帳票等を印刷します。

設定ツール説明書

※プリンターのイメージ画像はお使いのプリンターによって異なります。

①コマンドモード選択

- P-touch Template モード

  P-touch テンプレートを使用する場合は、P-touch Template モードを選択します。

  コマンドモードが異なる場合は、ホスト端末から送るデータの冒頭に「コマンドモード設定」コマンドを挿入し、動的に P-touch Template モードに切り替える必要があります。
- ESC/P モード
- Raster モード

②テンプレート番号選択

電源オン時に、デフォルトで選択されるテンプレート番号を設定します。

ただし、プリンター本体に転送されていないテンプレート番号を設定することはできません。

③区切り記号設定

区切り記号とは、データの流し込み対象を、次のオブジェクトに移行する時に使う記号です。

１～20文字の文字列で設定します。

④印刷開始トリガー設定

印刷開始トリガーを、以下の3つの中から1つ選択します。

- 印刷開始コマンド文字列受信時

  （⑤で設定した印刷開始コマンド文字列を受信した時、印刷を開始します。）
- 全てのオブジェクトが埋まった時

  （最終オブジェクトで、区切り記号を受信した時、印刷を開始します。）
- 設定されている文字数受信時

  （⑥で設定した文字数を受信した時、印刷を開始します。ただし、区切り記号は、文字数にカウントされません。）

⑤印刷開始コマンド文字列設定

１～20文字の文字列で設定します。

⑥印刷開始データ数設定

印刷開始データ数は、1～999 の値で設定が可能です。

⑦文字コードセット選択

選択不可です。

⑧国際文字設定

各国別の文字セットを、以下から選択します。

- USA
- フランス
- ドイツ
- イギリス
- デンマーク
- スウェーデン
- イタリア
- スペイン
- 日本
- ノルウェー
- デンマークII
- スペインII
- ラテンアメリカ
- 韓国
- リーガル

上記選択の国により、以下の12コードが切り替わります。

23h 24h 40h 5Bh 5Ch 5Dh 5Eh 60h 7Bh 7Ch 7Dh 7Eh

切り替わる文字に関しては、P-touch Template Command 国際文字セット表を参照ください。

⑨プレフィックス文字設定

プレフィックス文字コードを変更する。1文字の文字コードで設定します。

プレフィックス文字とは、P-touch Template モードで使えるコマンドを識別するための先頭文字コードです。

⑩読み捨て文字列設定

ここで指定された文字列は、データ受信時に読み捨てられます。1～20文字の文字列で設定します。

⑪改行コード文字列設定

改行コードとは、データ流し込み時、以降のデータをテキストオブジェクト内の次の行に移動したいときに使うコードです。改行コードを以下の4つの選択肢から選択するか、1～20文字の文字列で設定します。

1. ^CR
2. ￥0D￥0A
3. ￥0A
4. ￥0D

⑫コピー枚数設定

コピー枚数を設定する。1～99枚まで設定可能です。

その他

・ini ファイル

[設定]ボタン(メイン画面または通信設定画面)をクリックした後、終了時に値を保存します。

(MW-145BT の場合)

C:¥Documents and Settings¥(ユーザアカウント名)¥Application Data¥Brother ¥Printer Settings¥Pts3532.ini

(MW-260 の場合)

C:¥Documents and Settings¥(ユーザアカウント名)¥Application Data¥Brother ¥Printer Settings¥Pts3432.ini

(PJ-623 の場合)

C:¥Documents and Settings¥(ユーザアカウント名)¥Application Data¥Brother ¥Printer Settings¥pts3236.ini

(PJ-663 の場合)

C:¥Documents and Settings¥(ユーザアカウント名)¥Application Data¥Brother ¥Printer Settings¥pts3436.ini

・テキストボックス③⑤⑨⑩への文字入力

テキストで入れられる文字はテキストで入力し、制御コードなどは、¥マークを前につけて ASCII コード[00 - FF]で入力ができます。

例；PRINT ；[PRINT]

TAB 制御コード；[¥09]

復帰制御コード；[¥0D]

¥ ；[¥¥]

P-touch Template 制限事項

■テキストオブジェクト関係

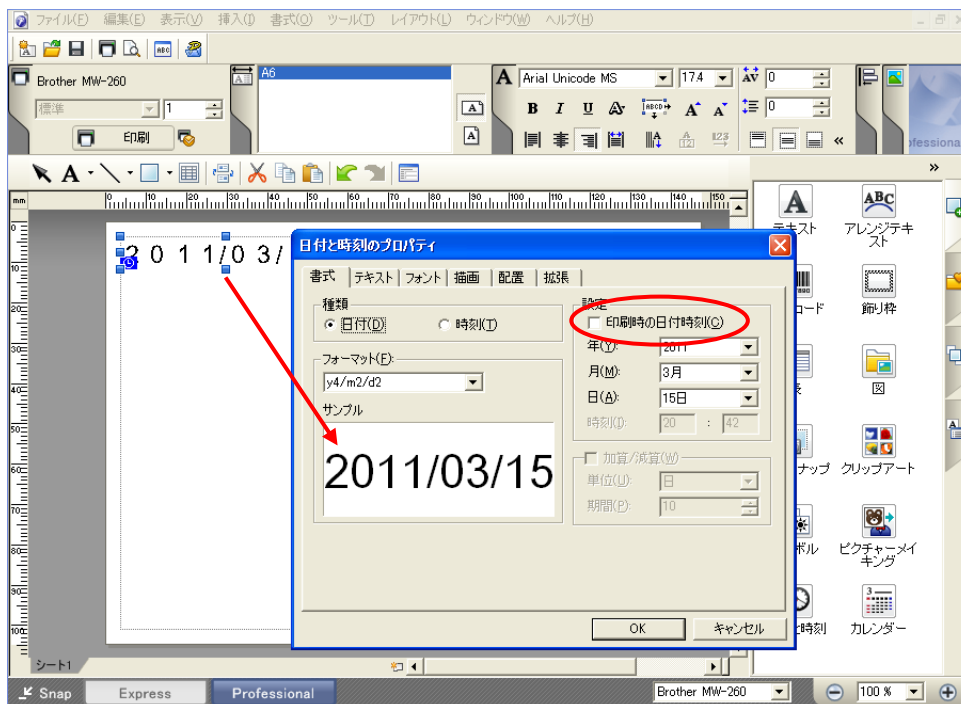
（本書のP-touch Editorの設定と本体イメージの相関表もご参照ください。）

・P-touch Editor で設定したフォントは、プリンター本体転送時、1バイトコードならばヘルシンキに、2バイトコードならゴシックに変換されます。

・P-touch Editor で設定した文字サイズは、プリンター本体転送時、プリンター本体内蔵の近いサイズに変換されます。

・P-touch Editor で設定した文字サイズは、オブジェクト内で全て同じサイズになります。

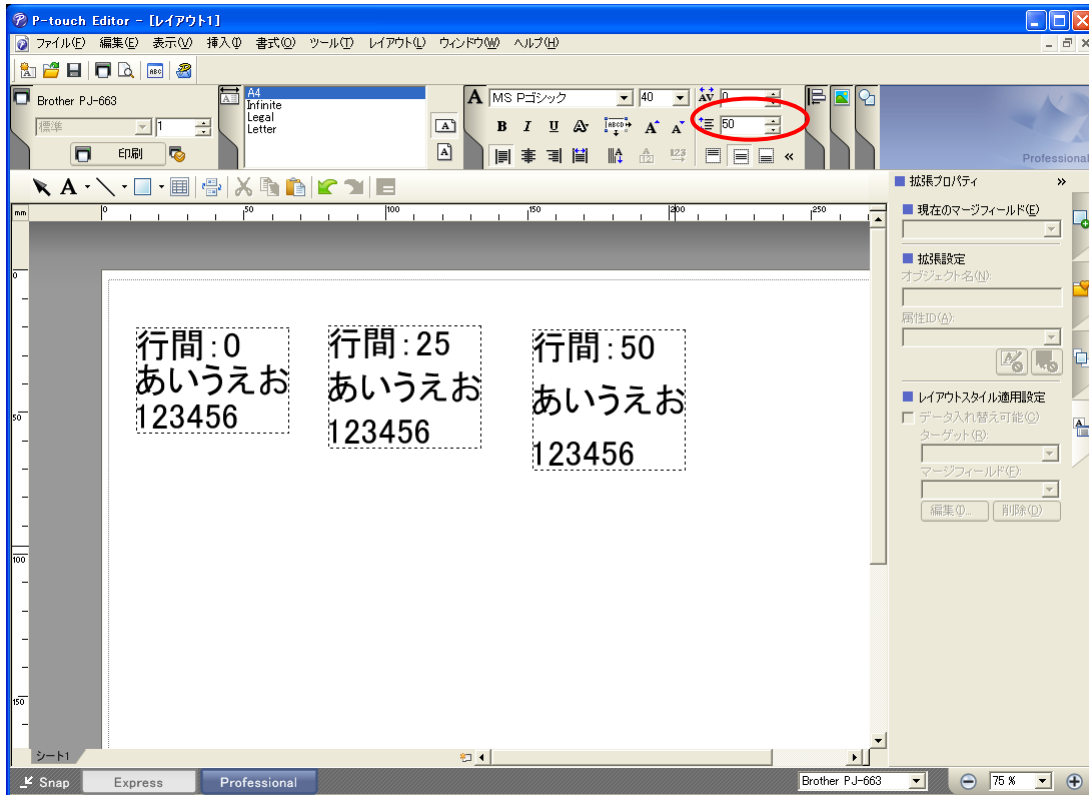
・P-touch Editor で設定したタイムスタンプは、「印刷時の日付時刻」設定有の場合、空白印刷され、「印刷時の日付時刻」設定無の場合、P-touch Editor で作成時の日時で印刷されます。

＜「印刷時の日付時刻」の設定箇所＞

（P-touch Editor で、「日付と時刻のプロパティ」の「印刷時の日付時刻」の設定を解除するには、日付と時刻オブジェクトのプロパティを開き、「印刷時の日付時刻」チェックボックスのチェックを外します。）

・P-touch Editor で設定した水平配置（“均等揃え”、“両端揃え”）設定は、左寄せになります。

・P-touch で設定した改行時の行間設定有効範囲は、0～255ドットです。

（P-touch Editor の行間設定は、マイナスの値を使用しないでください。また、プリンター本体の行幅に上限（約 21mm）があるため、P-touch Editor でそれより大きな行間設定を行ってもプリンター本体には反映されません。）

＜P-touch Editor での行間設定方法＞

・P-touch Editor で設定したナンバリング設定は、無効です。
（ナンバリング文字列は初期値として設定した文字列が、P-touch Template では印刷されます。）

＜ナンバリングの初期値について＞

No.100
NUM

P-touch Editor 上で上図のナンバリングが設定されている場合、初期値は"100"となり、プリンター本体での印刷時もそのまま"No.100"と印刷されることになります。

・P-touch Editor で設定した文字装飾は、オブジェクト内で全て同じ装飾になります。
・P-touch Editor で設定したテキストオプションが、「長文」の時、垂直配置は、常に上寄せの位置に配置されます。
・P-touch Editor で設定したテキストオプションの「テキストを折り返す」は、オブジェクトサイズが固定で文字は縮小されます。
（「テキストを折り返す」はもともと長い文章を挿入するために追加されたモードであり、「テキストを折り返す」機能をなくしてしまうと極端に文字サイズが小さくなる可能性があるため、P-touch Editor では用紙が固定サイズまたは定長が設定されている場合は「枠サイズ固定」、用紙にオ

ート長が設定されているときは「自動長」を推奨します。）

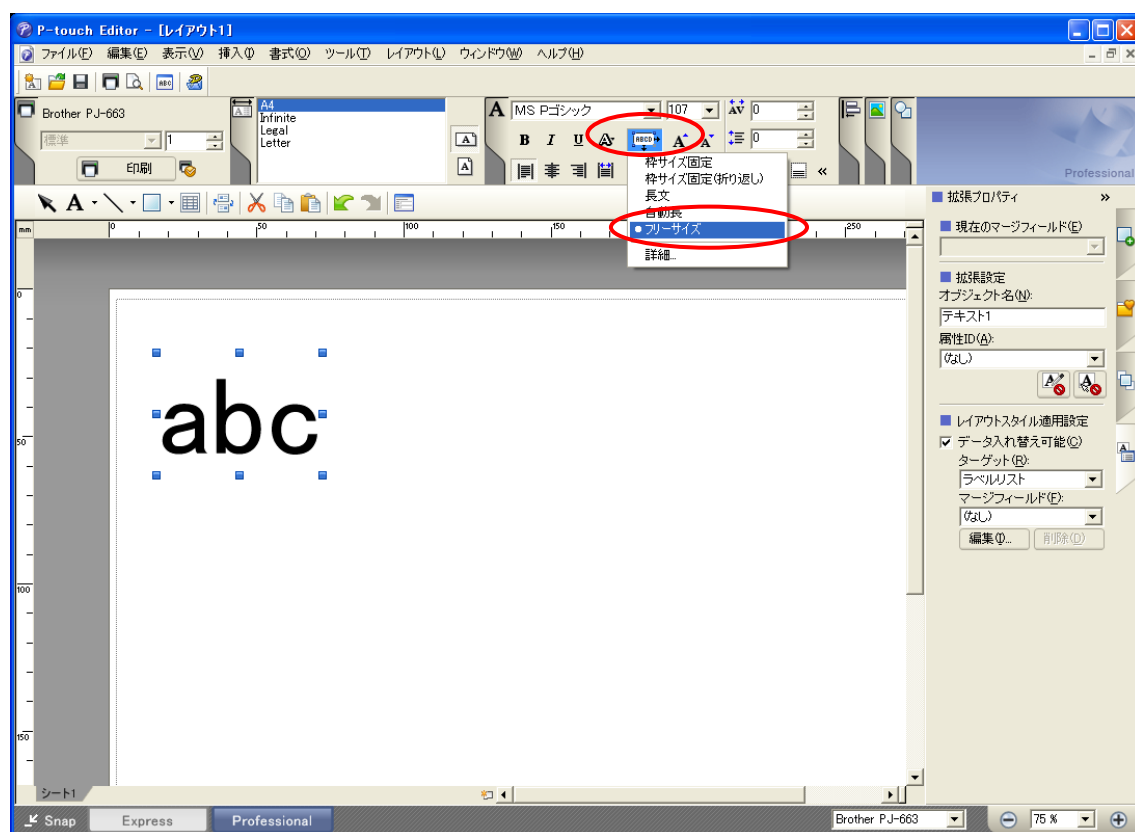
1.「縮小して全体を表示」：テキストオブジェクトサイズが固定になり、テキストサイズがテキスト長さにより変更されます。

2.「はみ出した部分はクリップする」：テキストオブジェクトサイズ及びテキストサイズが固定になります。テキストが長い場合は、印刷されません。

3.「長文」：テキストオブジェクト幅とテキストサイズは固定になります。テキストが長い場合には、自動的に改行し垂直方向にのびます。.

4.「自動長」：テキストオブジェクト高さとテキストサイズは、固定になります。テキストが長い場合は、テキストオブジェクトの幅がのびます。

5.「フリーサイズ」：テキストサイズが固定になります。テキストが長い場合は、テキストオブジェクトの幅がのびます。改行されたら垂直方向にのびます。

＜テキストオプション（文字の制御）の設定方法＞

赤丸で囲んだいずれかのコントロールをクリックすることで、選択肢がドロップダウンで表示され、その中から選択します。

■バーコード関係

●バーコード全体

・プリンター本体の対応していないバーコードを含むテンプレートを転送しようとすると、転送時にエラーになりプリンター本体に転送できません。

プリンター本体が対応しているバーコードは、以下のとおりとなります。

1次元バーコード

CODE39,I-2/5,UPC-A,UPC-E,EAN-13,EAN-8,CODE128, GS1-128（UCC/EAN-128）, CODABAR

2次元コード

PDF417、QR Code、Micro QR Code、DataMatrix

・バーコードオブジェクトにデータを流し込んだとき、規格外の文字があった場合は、そのバーコードオブジェクトは印刷されません。

・バーコードの大きさは、P-touch Editor からの印刷結果とは異なる場合があります。

CODE128/ GS1-128（UCC/EAN-128）は、大きめに印刷されやすいので、P-touch Editor でテンプレートを作成時に、余白を多めに入れることを推奨します。

・P-touch Editor で作成時のテンプレートより、データの流し込みで横幅の長いバーコードが出来た場合、途中で印刷が切れることがあります。

・バーコードデータの直前、直後に改行を入れないでください。バーコードデータの一部とみなされ、改行コードも含んだバーコードが作成されるか、またはバーコード規格外のデータが入力されたとして、バーコード部分の印刷が空白になります。

・バーコードデータの直後は、区切り記号、もしくは印刷開始文字列をいれてください。

●1次元バーコード

・P-touch Editor で設定した1次元バーコードの比率の設定は無効になります。常に 3:1 に固定となります。

・バーコードの高さの自動変換：

以下の高さ以上のバーコードを作成しても最大印字幅（ヘッド幅）に合わせて、以下のように変換されます。

MW-260/PJ-623/PJ-663： 96mm 以上 → 96mm

MW-145BT ： 69mm 以上 → 69mm

・規格毎の入力文字数は以下の通りとなります。

CODE39 ： 1～50文字（両サイドの＊は含まれない）

I－2／5 ： 3～64文字

EAN－8 ： 7文字

EAN－13 ： 12文字

UPC－A ： 11文字

UPC－E ： 6文字

CODABAR　　：4～64文字（先頭と終了はA、B、C、Dのいずれか）
CODE128　　：1～64文字
GS1－128（UCC／EAN－128）：1～64文字
上記の範囲を超えて転送しようとすると、転送時にエラーとなります。データの流し込みは、下限値に満たない場合は、印刷されません。上限値を超えた場合は、上限値までのデータを有効とします。ただし、64文字を超えた場合は、印刷されません。

・P-touch Editor でバーの高さが極端に低いバーコードのテンプレートを作成すると、バーが印刷されないことがあります。

●CODE39

・データ流し込み時、データの先頭と最終の＊は読み飛ばします。

●GS1－128（UCC／EAN－128）／CODE128

・P-touch Editor で幅を極小に設定すると、下部文字設定に関わらず、下部文字は印刷されません。

●QR Code

・P-touch Editor で設定した QR Code のバージョン設定は無効である。バージョン設定は、自動にしてください。
・P-touch Editor で設定した連結設定は無効となります。

●PDF417

・P-touch Editor で設定したPDF417のエラー訂正レベルは、プリンター本体と一致しないため、P-touch Template での印刷時に、バーコードの大きさが変わることがあります。
・P-touch Editor で設定したPDF417の幅で、中は小に変換されます。
・P-touch Editor で設定した連結設定は無効になります。

●DataMatrix

・P-touch Editor で設定した連結設定は無効になります。
・P-touch Editor で設定したマクロ設定は無効になります。

■イメージ関係

・P-touch Editor で、イメージが重なり合ったテンプレートを転送した場合、全てのイメージデータは重ねあわせられます。（P-touch Editor はデフォルトでは後で作ったものが上に表示されます。）

■その他

・最大転送テンプレート数は99個である。ただし転送容量が以下を超えた時点で転送できなくなります。

MW-145BT/MW-260 の場合　：　512 KB

PJ-623/PJ-663 の場合　：　5,888 KB

・1テンプレートの最大オブジェクト数は以下の通りです。それを超えた場合、プリンター本体に転送しようとしたときにエラーとなり転送できません。

MW-145BT/MW-260 の場合　：　50個

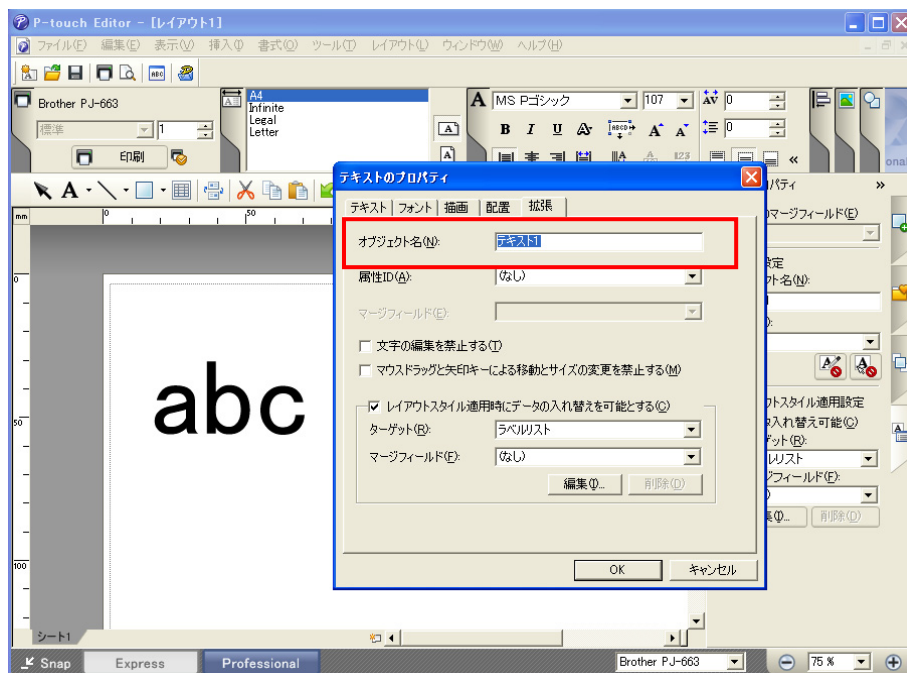
PJ-623/PJ-663 の場合　：　200個

・1テンプレート内のトータル行数（テキストの行数）の最大値は1,000行になります。これを超えた場合は、印刷時にエラーとなります。

・印刷データの改行コード（0D0A、0D、0A）は読み捨てます。ただし、区切り記号や印刷開始文字列、改行コマンドなど、特別なデータ列として設定された場合はそれらに従います。

・オブジェクトの順番は、オブジェクト名の下位から4ケタ分の数字のみ有効として、順番が決定されます。数字がない場合は、一番最後の順番になります。同じ番号の場合は、テキスト、1次元バーコード、2次元コードの優先順位で番号を決定し、オブジェクトも同じ場合は、その中で最初に作ったものを先の順番にします。順番を示す数字をオブジェクト名の後ろに入れることを推奨します。

（P-touch Editor でオブジェクト名を設定するには、テキストおよびバーコード各オブジェクトのプロパティを表示し、拡張タブのオブジェクト名で名前を設定します。）

＜オブジェクト名の設定箇所＞

・印刷データを流し込む場合は、コマンドモードを、P-touch Template モードにしてください。

・プリンター本体にテンプレートを転送すると、動的コマンドで設定した値は、全て初期化されます。

・印刷開始トリガーを、"全てのオブジェクトが埋まったとき"に設定時でも、印刷開始文字列を受信すると、印刷を開始します。

・PC からプリンタードライバーを通じて印刷した場合（P-touh Editor の利用を含む）、印刷後にプリンターのコマンドモードは、ESC/P モードまたはラスターモード（MW-145BT/MW-260 の場合はラスターモード）に切り替わります。テンプレート印刷を行うには、プリンター本体設定ツールで P-touch Template モードに変更するか、既にプリンター本体設定ツールで起動時のコマンドモードを P-touch Template モードにしていたならば、電源を一度切って再度電源投入（プリンターの再起動）すれば、P-touch Template モードに戻ります。プリンターのコマンドモードがどのコマンドになっていても、動的に P-touch Template モードに変更すれば、P-touch Template コマンドが利用可能となります。

注意事項

静的コマンドは、以下のモードでしか有効になりません。

MW-145BT/MW-260 の場合　　：　ラスターモード

PJ-623/PJ-663 の場合　　　：　メンテナンスモード

【例:テンプレート選択番号を、静的に10番に変更したい場合。】

1)ラスターモード(PJ-623/PJ-663 の場合はメンテナンスモード)に切り替えます。

ESC i a 01h(1Bh 69h 61h 01h)

2)テンプレート番号を10番にします。

ESC i X n 2 01h 00h 0Ah

(1Bh 69h 58h 6Eh 32h 01h 00h 0Ah)

3)動的に、P-touch Template モードにします。

ESC i a 03h(1Bh 69h 61h 03h)

Bluetooth 使用時の注意点(MW-145BT/MW-260/PJ-663 のみ)

Bluetooth で接続する場合、ポートをオープンした直後は、プリンターの準備が整っていないことがあります。印刷データを送る場合、ポートオープン後に 500msec 以上待ってから、データを送り始めてください。

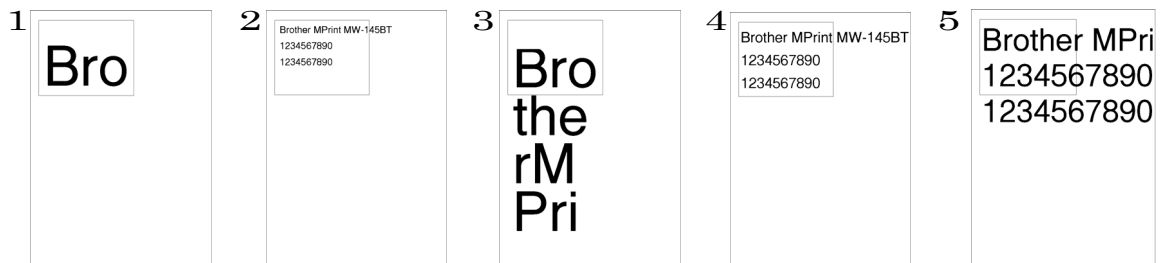
また、複数ページの印刷をする場合などで、ポートのクローズとオープンが連続して行なわれる場合には、ポートをクローズした後に 500msec 以上待って次のポートオープンを行ってください。

1 ページ分の印刷データを送信後印刷が完了するまで Bluetooth ポートは閉じないでください。印刷完了後、プリンターから 32 バイトの返信がありますのでホスト側で受信した後、ポートをクローズしてください。

ホスト側が送信したコマンドに対してプリンターから返信がある場合は、プリンターからの返信を受信してから Bluetooth ポートをクローズしてください。プリンターからの返信を受信しないで Bluetooth ポートをクローズすると通信エラーになる場合があります。

P-touch Editor の設定と本体イメージの相関表

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">P-touch Editorの設定
テキストオプション（文字の制御）</th><th colspan="4">本体イメージ</th><th rowspan="3">印刷
イメージ</th></tr>
<tr><th colspan="2">横</th><th colspan="2">縦</th></tr>
<tr><th>制御モード</th><th>詳細-
文字の制御</th><th>テキストを
折り返す</th><th>オブジェクトサイズ</th><th>文字サイズ</th><th>オブジェクトサイズ</th><th>文字サイズ</th></tr>
<tr><td rowspan="4">枠サイズ
固定</td><td>はみ出した
部分は
クリップする</td><td></td><td>固定
オブジェクトサイズの
横からはみ出た文字は
印刷しない</td><td>固定</td><td>固定
オブジェクトサイズの
縦からはみ出た文字は
印刷しない</td><td>固定</td><td>1
（下記参照）</td></tr>
<tr><td>縮小して
全体を
表示する</td><td></td><td rowspan="4">固定
最小サイズの場合
横方向はみ出る</td><td rowspan="4">オート
オブジェクト
サイズに
合わせて
文字サイズを
最大サイズ
に調整する</td><td rowspan="4">固定
最小サイズの場合
縦方向はみ出る</td><td rowspan="4">オート
オブジェクト
サイズに
合わせて
文字サイズを
最大サイズ
に調整する</td><td rowspan="4">2
（下記参照）</td></tr>
<tr><td>はみ出した
部分は
クリップする</td><td>チェック</td></tr>
<tr><td>縮小して
全体を
表示する</td><td>チェック</td></tr>
<tr><td>枠サイズ
固定
（折り返し）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>長文</td><td></td><td></td><td>固定
オブジェクトサイズの
横からはみ出た文字は
自動改行する</td><td>固定</td><td>オブジェクトサイズの
縦からはみ出た文字も
印刷する</td><td>固定</td><td>3
（下記参照）</td></tr>
<tr><td>自動長</td><td></td><td></td><td>オブジェクトサイズの
横からはみ出た文字も
印刷する</td><td>固定</td><td>固定
最小サイズの場合
縦方向はみ出る</td><td>オート
オブジェクト
サイズに
合わせて
文字サイズを
最大サイズ
に調整する</td><td>4
（下記参照）</td></tr>
<tr><td>フリー
サイズ</td><td></td><td></td><td>オブジェクトサイズの
横からはみ出た文字も
印刷する</td><td>固定</td><td>オブジェクトサイズの
縦からはみ出た文字も
印刷する</td><td>固定</td><td>5
（下記参照）</td></tr>
</table>

印刷イメージ

印刷までの時間を速くするテンプレートの作成方法

●変更しないオブジェクトは下記の手順でイメージにしてください。

・「Text のプロパティ」-「拡張」-「文字の編集を禁止する」をチェックするとオブジェクトがイメージになります。

・「Text のプロパティ」-「拡張」がない場合は、「ツール」-「オプション」-「全般」-「その他」-「オブジェクトのプロパティで拡張ページを表示」をチェックしてください。

●文字サイズが固定になるように、テキストオプション(文字の制御)を設定してください。

付録：仕様

BROTHER MW-145BT/MW-260/PJ-623/PJ-663 P-touch Template 仕様

<table>
<tr><td rowspan="10"></td><td colspan="2">印刷モード</td><td>（MW-145BT/MW-260）
Raster(PTCBP モード)
ESC/P モード
P-touch Template モード</td><td>（PJ-623/PJ-663）
Raster モード
ESC/P モード
P-touch Template モード
メンテナンスモード</td></tr>
<tr><td colspan="2">解像度 (dpi)</td><td colspan="2">300dpi × 300dpi</td></tr>
<tr><td rowspan="5">テキスト</td><td>フォント</td><td colspan="2">ビットマップフォント： ゴシック、ヘルシンキ
アウトラインフォント： ゴシック、ヘルシンキ</td></tr>
<tr><td>サイズ(ドット)</td><td colspan="2">ビットマップフォント： 16x16, 24 x 24, 32 x 32 ドット
アウトラインフォント： 33 - 400 ドット（11 段階）</td></tr>
<tr><td>文字スタイル</td><td colspan="2">なし，ボールド，イタリック，アウトライン，シャドウ，
シャドウ＋アウトライン</td></tr>
<tr><td>水平位置</td><td colspan="2">左寄せ，中寄せ，右寄せ</td></tr>
<tr><td>回転</td><td colspan="2">垂直，水平</td></tr>
<tr><td rowspan="2">バーコード</td><td>規格 *1</td><td colspan="2">CODE39, ITF(I-2/5), EAN-13, EAN-8, UPC-A, UPC-E, CODABAR, CODE128, GS1-128（UCC/EAN-128），QR Code (model 1, model 2, micro QR), PDF417 (Standard, Truncate), DataMatrix (ECC200 Square, ECC200 Rectangular)</td></tr>
<tr><td>幅</td><td colspan="2">大，中，小，極小</td></tr>
</table>

*1 BarStar Pro エンコードライブラリ(DataMatrix, PDF417)の著作権は、アイニックス株式会社にあります。

QR コードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

QR コード生成プログラム Copyright(C) 2008 DENSO WAVE INCORPORATED

P-touch Template command reference

Version　4.0.1版

超薄型モバイルプリンター MPrint シリーズ
MW-260
MW-145BT

＜作成＞　ブラザー工業株式会社

使用許諾契約書

ブラザー工業株式会社

重要 ー 以下のソフトウェア使用許諾書を注意してお読みください。

本使用許諾契約書 (以下「本契約書」といいます) は、ブラザー工業製モバイルプリンター製品「MPrint」シリーズ及び／又は「Pocket Jet」シリーズ（以下単に「MPrint プリンター」といいます）用ソフトウェア開発ツールおよび開発資料 (以下「本ソフトウェア」といいます) に関して、あらかじめ弊社 WEB サイトに掲載の「MPrint&PocketJetSDK ユーザー登録フォーム」に真正な内容の必要事項を記入の上、ブラザー工業に提出することによって本ソフトウェアを入手されたお客様 (個人または法人のいずれであるかを問いません。以下単に「お客様」といいます) と ブラザー工業株式会社(以下「ブラザー工業」といいます) との間に締結される法的な契約書です。本ソフトウェアは、コンピューター ソフトウェア コンポーネントならびにそれに関連した媒体、印刷物 (マニュアルなどの文書)、サンプルプログラム、および「オンライン」または電子文書の全部もしくは一部を含みます。本ソフトウェアには、本契約書の修正条項または追加条項が付属している場合があります。本ソフトウェアをインストール、複製、または使用することによって、お客様は本契約書の条項に拘束されることに同意されたものとします。同意されない場合、ブラザー工業は、お客様に本ソフトウェアのインストール、使用または複製のいずれも許諾できません。

登録について
この契約はブラザー工業に対しあらかじめ上記方法にてユーザー登録を行うことによって本ソフトウェアを入手されたお客様に対してのみ成立するものであり、ブラザー工業は、それ以外の第三者（上記以外の方法で本ソフトウェアを入手された第三者を含む）については、お客様が本契約第２項 c.に
基づいて再使用許諾するエンドユーザーを除き、本ソフトウェアの使用を一切許諾致しません。
なお、登録内容に変更がある場合、お客様は速やかにブラザー工業に連絡するものとします。
ブラザー工業はお客様に登録して頂いた情報を社内およびその関連会社での管理、新製品開発のための資料、及びお客様との連絡以外の目的には使用しないことに同意致します。

１． 権利の帰属

(a) 本ソフトウェアに関する一切の著作権その他の知的財産権は、ブラザー工業が留保致します。
(b) ブラザー工業は、本契約に明示されない事項については、本ソフトウェアについて何らお客様に権利を許諾致しません。

２． ライセンスの許諾

お客様が本契約書のすべての条項および条件を厳守する限り、ブラザー工業はお客様に対し以下の権利を非独占的に許諾します。

a． インストールおよび使用
お客様は、お客様の事業所 1 ヶ所内で MPrint プリンターに出力する目的にのみ、本ソフトウェアのコピーを１台若しくは複数台のコンピューターにインストール若しくは蓄積して使用することができます。かかるコンピューターにはネットワークサーバーも含まれますが、当該事業所外からダウンロード可能な場所にインストール若しくは蓄積することはできません。

ｂ．アプリケーションの開発；再頒布の権利
お客様は、MPrint プリンターに出力する機能を有するお客様のアプリケーション製品（以下、開発アプリ製品といいます）において、かかる出力機能を設計、開発、テストするために本ソフトウェアを使用することができます。お客様は、以下の条項を厳守する限り、本ソフトウェアの一部を複製および頒布する無償の権利を許諾されます。

ｃ．エンドユーザーに再使用許諾する権利
お客様は、本第２項ｄ号(c)乃至(i)を遵守することを条件として、お客様が本契約に基づき頒布する開発アプリ製品のエンドユーザーに対し、当該開発アプリ製品に組み込まれた本ソフトウェアの一部を、開発アプリ製品を使用するために必要最低限の範囲で、使用することを再許諾する権利を許諾致します。

ｄ．再頒布の条件

(a) お客様は、開発アプリ製品がMPrintプリンターに出力する機能を実現する（以下、頒布目的といいます）ために、本ソフトウェアのうち、 [Redist.txt]ファイルに一覧表示されたもの（以下、再頒布対象モジュールＩといいます）を、ファイル、データに一切の変更なく、ブラザー工業から提供されたオリジナルの状態に限り、開発アプリ製品に組み込んで再頒布することができます。
(b) お客様は、前(a)号に加え、本ソフトウェアのうち、 [Redist2.txt]ファイルに一覧表示されたもの（以下、再頒布対象モジュールIIといいます）を、自由に改変し、頒布目的のために開発アプリ製品に組み込んで再頒布することができます。
(c) お客様は、再頒布対象モジュールＩ及び再頒布対象モジュールII（以下これらを総称して再頒布対象モジュールといいます）以外の本ソフトウェアの全部若しくは一部を再頒布することはできません。
(d) お客様は、再頒布対象モジュールを開発アプリ製品に組み込まずに頒布することはできません。
(e) お客様は、再頒布対象モジュールII以外の本件ソフトウェア（再頒布対象モジュールＩを含みます）を改変することはできません。
(f) お客様は、開発アプリ製品の販売にあたり、ブラザー工業の書面による事前の承諾なくして、ブラザー工業に権利が帰属するロゴまたは商標（「ブラザー」・「brother」等）を使用することはできません。
(g) お客様は、再頒布対象モジュールを組み込んだ開発アプリ製品の動作画面、マニュアルその他関連資料中に、本ソフトウェアに含まれているすべての著作権表示をオリジナルに忠実な形態で表示しなければなりません。
(h) お客様は、再頒布対象モジュールを組み込んだ開発アプリ製品に本契約書のコピーを添付しなければなりません。
(i) お客様は、開発アプリ製品のエンドユーザーに対し、当該開発アプリ製品に関するエンドユーザーライセンス契約等により、本ソフトウェアの再頒布を明示的に禁止しなければなりません。

３．追加のソフトウェア

本契約は、ブラザー工業が提供する本ソフトウェア・オリジナルのアップデートまたは追加製品に適用されます。但し、かかるアップデートまたは追加製品に別条項が適用される場合はこの限りではありません。

４．レンタル等の禁止

お客様は本ソフトウェアをレンタル、リース、貸与または譲渡することはできません。

５．リバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルの制限

お客様は、本ソフトウェアをリバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブル、またはその他の方法で読み取り可能な形に変えたり、変更を加えたりすることはできません。但し再頒布対象モジュールIIに関してはこの限りではありません。

６．契約の終了

以下に該当する場合、ブラザー工業は、他の権利を害することなく本契約を終了することができます。そのような場合、お客様は本ソフトウェアおよびその複製物またはその構成部分を全て回収、破棄しなければなりません。
(a) お客様が本契約書の条項および条件に違反した場合。
(b) お客様よりブラザー工業に登録データの削除要求があった場合。
(c) お客様による登録内容に事実との不一致があった場合。
(d) その他両当事者間の合意による終了またはブラザー工業の判断により本契約を終了する旨の通知があった場合。

７．データの使用に関する承諾

お客様は、ブラザー工業およびその関連会社が、本ソフトウェアに関連したサポートサービスの一部として、お客様から提供された技術情報を収集して使用することを承諾するものとします。ただし、ブラザー工業はお客様を特定することとなるような方法でその技術情報を利用しないものとします。

８．輸出規制

お客様は、本ソフトウェア (その一部も含む)を、日本国外に輸出または再輸出しないことに同意するものとします。

９．サポート

(a) 本ソフトウェアについて　本ソフトウェアに関するサポート（本ソフトウェアの機能・利用方法に関する問い合わせ、及び、本ソフトウェアを用いたプログラミングに関する問い合わせへの対応を含みます。以下本項において同じ）は、ブラザー工業が自らの任意で行います。本ソフトウェアに関し、ブラザー工業はお客様に対し、何らサポートの責任を負いません。

(b) 開発アプリ製品について　お客様は、開発アプリ製品のエンドユーザーに対し、その開発アプリ製品（これに組み込まれた再頒布対象モジュールを含みます）に関わる一切のサポートを行うものとし、ブラザー工業はお客様が作成した開発アプリ製品及びこれに組み込まれた再頒布対象モジュールに関し、エンドユーザーに対して何らサポートする責任を負いません。

１０．無保証

ブラザー工業は、本ソフトウェアおよびサポートサービス（該当する場合）を現状有姿のまま瑕疵を問わない条件で提供しています。そのため、本ソフトウェアの機能・品質についてブラザー工業はお客様に対し何らの保証も致しません。(本ソフトウェア若しくは開発アプリ製品が市販に耐え得る商品たり得ることや特定の目的に合致することも保証しません。また、本ソフトウェアの使用によりお客様のシステム・データが失われないことや使用結果が的確であることも保証しません。）さらに、本ソフトウェアの使用が第三者の特許権・実用新案権・意匠権・回路配置利用に関する権利を侵害しないことも保証致しません。

１１．損害に関する免責

(a) 本ソフトウェアについて　ブラザー工業は、本ソフトウェアの使用もしくは使用不能またはサポートサービスの利用に関連して生じるもしくはその結果として生ずる特別損害、付随的損害、間接損害、派生的損害、懲罰的損害またはその他の一切の損害 (逸失利益、情報の喪失、事業の中断、人身障害、誠実または合理的な注意義務を含めた義務の不履行、過失、またはその他の金銭的もしくはその他の損失を含みますがこれらに限定されません) に関して一切責任を負いません。

(b) 開発アプリ製品について　お客様は、開発アプリ製品（これに組み込まれた再頒布対象モジュールも含みます）の使用または頒布により生じるまたはその結果として生ずる紛争または訴訟(弁護士費用も含みます)について、ブラザー工業を免責、補償および防御するものとします。

１２．ダウンロードサイト移転・削除

本ソフトウェアが Web ページにより頒布される場合、ブラザー工業はその判断によりいつでも、本ソフトウェアのダウンロードを削除する権利およびダウンロード用 Web ページを変更、移動、または削除する権利を留保します。

１３．準拠法

本契約は、日本国法に準拠するものとします。

変更履歴

Ver.4.0.1

印刷フロー例を追加しました。

プリンターステータスを追加しました。

エラー発生フローを追加しました。

Ver.4.0.0

巻末の「P-touch Template 制限事項」「注意事項」「付録:仕様」を、「P-touch Template Manual」へ移動しました。

Ver.3.1.2

注意を追加しました。

印刷開始コマンドの説明を追加しました。

Ver.3.1.1

MW-145BT 対応コマンドを追加しました。

EULA を追加しました。

Ver.1.04

MW-260 用 P-touch Template コマンドリファレンスを公開しました。

【目次】

制御コード一覧

P-touch Templateモードで、設定、取得可能なコマンド

^PT	5E 50 54	動的	印刷開始トリガー選択
^PS	5E 50 53	動的	印刷開始コマンド文字列設定
^PC	5E 50 43	動的	印刷開始受信文字数設定
^SS	5E 53 53	動的	区切り記号指定
^TS	5E 54 53	動的	テンプレート選択
^LS	5E 4C 53	動的	改行時の行間設定
^CC	5E 43 43	動的	プレフィックス文字変更
^RC	5E 52 43	動的	改行コマンド文字列設定
^CN	5E 43 4E	動的	コピー印刷枚数設定
^II	5E 49 49		初期化
^SR	5E 53 52		プリンターステータス要求
^VR	5E 56 52		バージョン情報取得
^CR	5E 43 52		オブジェクト内での改行
^OS	5E 4F 53		オブジェクト選択設定（オブジェクト番号）
^ON	5E 4F 4E		オブジェクト選択設定（オブジェクト名）
^DI	5E 44 49		オブジェクト直接挿入
ESC ia	1B 69 61	動的	コマンドモード設定

※上記コマンドは、P-touch Template モードにて、使用してください。
ラスターモードおよび、ESC/P モードでは使用できません。（ESC ia、ESC i!R を除く）

ラスターモードで、設定、取得可能なコマンド

ESC iXT2	1B 69 58 54 32	静的	印刷開始トリガー選択
ESC iXP2	1B 69 58 50 32	静的	印刷開始コマンド文字列設定
ESC iXr2	1B 69 58 72 32	静的	印刷開始受信文字数設定
ESC iXD2	1B 69 58 44 32	静的	区切り記号指定
ESC iXa2	1B 69 58 61 32	静的	読み捨て文字列設定
ESC iXi2	1B 69 58 69 32	静的	コマンドモード設定
ESC iXn2	1B 69 58 6E 32	静的	テンプレート選択
ESC iXf2	1B 69 58 66 32	静的	プレフィックス文字変更
ESC iXj2	1B 69 58 6A 32	静的	国際文字設定
ESC iXR2	1B 69 58 52 32	静的	改行コマンド文字列設定
ESC iXC2	1B 69 58 43 32	静的	コピー印刷枚数設定
ESC iXT1	1B 69 58 54 31		印刷開始トリガー選択項目取得
ESC iXP1	1B 69 58 50 31		印刷開始コマンド設定文字列取得
ESC iXr1	1B 69 58 72 31		印刷開始受信文字数取得
ESC iXD1	1B 69 58 44 31		区切り記号取得
ESC iXa1	1B 69 58 61 31		読み捨て文字列取得
ESC iXi1	1B 69 58 69 31		コマンドモード取得
ESC iXn1	1B 69 58 6E 31		テンプレート選択番号取得
ESC iXj1	1B 69 58 6A 31		国際文字設定値取得
ESC iXf1	1B 69 58 66 31		プレフィックス設定文字取得
ESC iXR1	1B 69 58 52 31		改行コマンド設定文字列取得
ESC iXC1	1B 69 58 43 31		コピー印刷枚数設定値取得

※ 上記コマンドは、ラスターモードにて、使用してください。
ESC/P モードおよび、P-touch Template モードでは使用できません。

P-touch Templateとは

P-touch Editor から、予め本体に転送してあるテンプレートに対して、ホストから、データを流し込み、印刷をするものです。

P-touch Template のコマンドは、プレフィックス文字＋２文字の文字列の構成になっています。プレフィックス文字を転送すると本体は、P-touch Template のコマンド解析を開始し、以下２文字の文字列がコマンドに該当すれば、指定の処理を行います。

静的コマンド、動的コマンド

静的コマンドとは、その設定コマンドで設定した項目は、保存され記憶されます。

動的コマンドとは、その設定コマンドで設定した項目は、一時的に保存され、電源を切るまで有効になります。

印刷が開始されない場合（よくある主な原因）

１）コマンドモードが、P-touch Template モードになっていない。

２）印刷開始トリガーの条件を満たしていない。

印刷開始トリガーは、下記の３つの種類があるが、この選択があっていない。

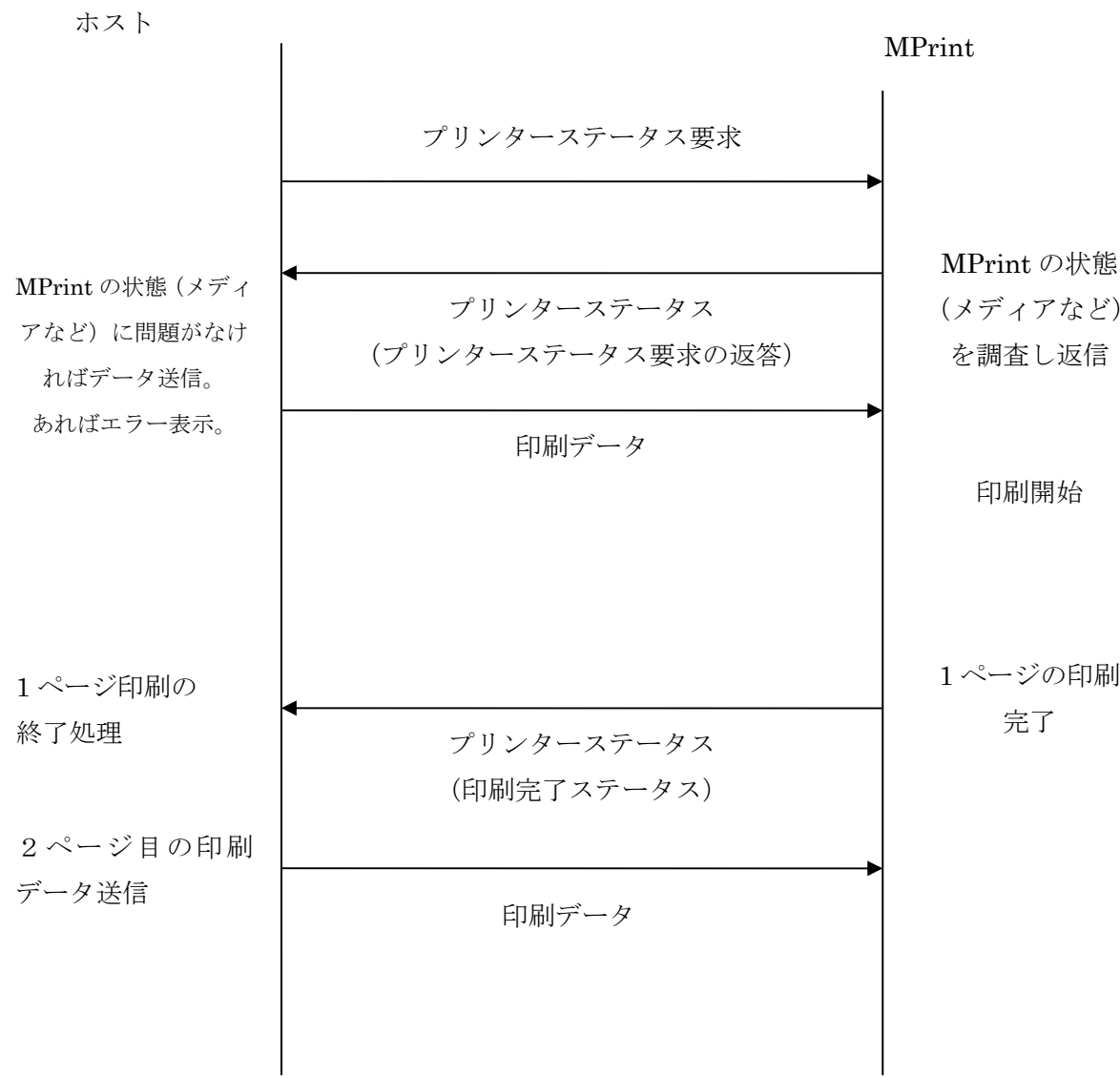
①設定されている文字列受信時

②全てのオブジェクトが埋まったとき

③設定されている文字数受信時

上記設定があっていないときは、本体設定ツールを使って設定をしてください。

印刷フロー例

ホスト
MPrint
プリンターステータス要求
MPrint の状態（メディアなど）に問題がなければデータ送信。
あればエラー表示。
プリンターステータス
（プリンターステータス要求の返答）
MPrint の状態
（メディアなど）
を調査し返信
印刷データ
印刷開始
1 ページ印刷の
終了処理
プリンターステータス
（印刷完了ステータス）
1 ページの印刷
完了
２ページ目の印刷
データ送信
印刷データ

プリンターステータス

プリンターステータスは３２バイトで構成されます。

序数	ｵﾌｾｯﾄ	ｻｲｽﾞ	名称	値/参照
1	0	1	ヘッドマーク	80 Hex 固定
2	1	1	サイズ	20 Hex 固定
3	2	1	「ブラザー」コード	‘B’ Char（42 Hex）固定
4	3	1	シリーズコード	‘2’ Char（32 Hex）固定
5	4	1	機種コード	下記参照
6	5	1	国別コード	‘0’ Char（30 Hex）固定
7	6	1	本体情報	00 Hex 固定
8	7	1	予約	00 Hex 固定
9	8	1	エラー情報１	下記参照
10	9	1	エラー情報２	下記参照
11	10	1	メディア幅	下記参照
12	11	1	メディア種類	下記参照
13	12	1	色数	00 Hex 固定
14	13	1	フォント	00 Hex 固定
15	14	1	日本語フォント	00 Hex 固定
16	15	1	モード	00 Hex 固定
17	16	1	濃度	00 Hex 固定
18	17	1	メディア長	下記参照
19	18	1	ステータス種類	下記参照
20	19	1	フェーズ種類	00 Hex 固定
21	20	1	フェーズ番号上位バイト	00 Hex 固定
22	21	1	フェーズ番号下位バイト	00 Hex 固定
23	22	1	通知番号	未使用
24	23	1	拡張部バイト数	00 Hex 固定
25	24	8	予約	00 Hex 固定

機種コード

モデル	値
MW-260	'4' Char（34 Hex）
MW-145BT	'5' Char（35 Hex）

エラー情報１

フラグ	マスク	意味
Bit 0	0x01	印刷動作で紙カセット無し
Bit 1	0x02	未使用
Bit 2	0x04	ペーパージャム
Bit 3	0x08	バッテリエンプティ
Bit 4	0x10	未使用
Bit 5	0x20	未使用
Bit 6	0x40	未使用
Bit 7	0x80	未使用

エラー情報２

フラグ	マスク	意味
Bit 0	0x01	印字中の紙カセット交換
Bit 1	0x02	展開バッファフル
Bit 2	0x04	通信エラー
Bit 3	0x08	未使用
Bit 4	0x10	未使用
Bit 5	0x20	高温エラー
Bit 6	0x40	フィードエラーまたは用紙切れ
Bit 7	0x80	システムエラー

メディア幅、長さ

メディアの幅と長さを mm 単位で記述します。

0～255 (FF Hex)。

MW-145BT では、幅 74、長さ 105 とします。

MW-260 では、幅 105、長さ 148 とします。

MW-145BT・MW-260 では紙カセットがない場合、メディア幅 0、長さ 0 になります。

MW-145BT・MW-260 では、紙カセットがあって用紙がない場合にはメディア幅 0、

長さ 0 になります。

メディア種類

MW-145BT の場合

メディア種類	値	備考
なし（紙カセットなし）	00 Hex	紙カセットなし
「感熱紙」	01 Hex	
予約 「ラベル」 「複写紙（２枚）」 予約 予約 紙カセット方向違い	02 Hex 03 Hex 08 Hex 09 Hex 0A Hex 0F Hex	予備 1 予備 2 予備 3

メディア「ラベル」は既に販売を終了しています。

MW-260 の場合

メディア種類	値	備考
なし（紙カセットなし）	00 Hex	紙カセットなし
「感熱紙」	11 Hex	
予約 「切取用紙」 予約 「複写紙（２枚）」 予約 紙カセット方向違い	12 Hex 13 Hex 14 Hex 15 Hex 16 Hex 0F Hex	予備 予備 予備

ステータス種類

ステータス種類	値
ステータスリクエストへの返信	00 Hex
印刷終了	01 Hex
エラー発生	02 Hex
（未使用）	03 Hex 〜 FF Hex

エラー発生フロー

エラー発生時の動作について

エラーが発生した場合、プリンターはエラー情報をホスト端末に返します。ただし、この時、端末側がエラー情報を受信したかどうかは確認しません。接続のタイミングによっては、異常がない時に以前のエラー情報を受信することがあるため、Bluetooth 接続時に一度プリンターに溜まったステータス情報を読み捨てて、イニシャライズ（初期化）を行うことを推奨します。

印刷途中でエラーが発生した場合、プリンター内部に印刷データを残しません。そのため、複数ページを印刷する際には、続きから印刷するかどうかは、ホスト端末側で管理する事が必要となります。

ａ.「印刷動作で紙カセット無し」エラー

改ページ FF を受信したとき、紙カセットがセットされていないことを検出したら、「印刷動作で紙カセット無し」エラーとし、エラーステータス（エラー情報１のビット０をセット）をホストに送信します。

紙カセットを入れると、エラーから復帰します。

ｂ.「ペーパージャム」エラー

印刷動作中に「ペーパージャム」を検出したら、「ペーパージャム」エラーとし、エラーステータス（エラー情報１のビット２をセット）をホストに送信します。

用紙を取り除くと、エラーから復帰します。

ｃ.「バッテリーエンプティ」エラー

「バッテリーエンプティ」を検出したら、「バッテリーエンプティ」エラーとし、エラーステータス（エラー情報１のビット３をセット）をホストに送信し、直ちに動作を停止し、数秒後に電源を切ります。

d.「印字中の紙カセット交換」エラー

「印字中の紙カセット交換」を検出したら、「印字中の紙カセット交換」エラーとし、エラーステータス（エラー情報２のビット０をセット）をホストに送信します。

紙カセットを入れなおすと、エラーから復帰します。

e.「プログラム（展開バッファーフル）」エラー

イメージ作成に失敗した時に、エラーステータス（エラー情報２のビット１をセット）をホストに送信します。通常の動作では発生しません。

f.「通信エラー」エラー

「通信エラー」を検出したら、「通信エラー」エラーとし、エラーステータス（エラー情報２のビット２をセット）をホストに送信します。

数秒後にエラーから復帰します。「通信エラー」は、プリンターとホスト端末の通信が成立した上で発生する通信のエラーであり、その下位レベル（Bluetooth の通信など）で通信に失敗している場合は、このエラーにはなりません。それぞれ端末ごとに、通信失敗時の処理方法が異なりますので、端末の供給元にご確認ください。よって、この「通信エラー」は、受信データがある時間途切れた時にまれに発生します。

g.「高温」エラー

・改ページ FF を受信したとき、高温状態を検知したら、「高温エラー」エラーとし、エラーステータス（エラー情報２のビット５をセット）をホストへ送信します。

・印刷中に高温状態を検知したら、「高温エラー」エラーとし、エラーステータス（エラー情報２のビット５をセット）をホストへ送信します。

温度が下がるとエラーから復帰します。

h.「フィード」エラーまたは「用紙切れ」

「用紙切れ」を検出したら、「用紙切れ」エラーとし、エラーステータス（エラー情報２のビット 6 をセット）をホストに送信します。

MW-260 は用紙送りで用紙先端を検出しなかったら、「フィード」エラーとし、エラーステータス（エラー情報２のビット 6 をセット）をホストに送信します。

用紙の入った紙カセットを入れると、エラーから復帰します。

MW-145BT、MW-260 で用紙の有無を検出する場合は、メディアサイズ（用紙がない場合は、幅、長さともに"0"）で確認してください。「フィード」エラーまたは「用紙切れ」は、用紙送りローラーを回転させた結果で判定しますので、フィード（用紙送り）の失敗か、それとも用紙切れによるものかは、分かりません。

ｉ.「システムエラー」エラー

「システムエラー」を検出したら、「システムエラー」エラーとし、エラーステータス（エラー情報２のビット 7 をセット）をホストに送信します。

制御コマンド詳細

＾ＰＴ 印刷開始トリガー選択の設定

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｐ　Ｔ　ｎ

【１０進】　９４　８０　８４　ｎｄ

【１６進】　５Ｅ　５０　５４　ｎｈ

【パラメーター】　１≦ｎ≦３

【解説】

・印刷開始トリガーの種類を選択します。

　ｎ＝１　：設定されている文字列受信時（デフォルト）

　ｎ＝２　：全てのオブジェクトが埋まったとき

　　　　　（最後のデータ後の区切り記号で印刷）

　ｎ＝３　：設定されている文字数受信時

　　　　　（区切り記号は、含まれない）

・このコマンドは、動的コマンドです。

【備考】

・ｎが１～３以外の値の場合は無効になります。

【例】

・印刷開始トリガーを“全てのオブジェクトが埋まったとき”にする場合。

　＾　Ｐ　Ｔ　２（５Ｅｈ　５０ｈ　５４ｈ　３２ｈ）

＾ＦＦ 印刷開始

【ＡＳＣＩＩ】　　＾　　Ｆ　　Ｆ

【１０進】　　　９４　７０　７０

【１６進】　　　５Ｅ　４６　４６

【パラメーター】　なし

【解説】

・印刷を開始します。

・但し、印刷開始トリガーが“設定されている文字列受信時”である必要があります。

（＾ＰＴ、ESC iXT2 参照）

・印刷開始コマンド文字列は変更することが可能です。

（＾ＰＳ、ESC iXP2 参照）

【例】

・テンプレート番号３を印刷する場合

＾　Ｔ　Ｓ　０　０　３　＾　Ｆ　Ｆ

（５Ｅｈ　５４ｈ　５３ｈ　３０ｈ　３０ｈ　３３ｈ　５Ｅｈ　４６ｈ　４６ｈ）

＾ＰＳ 印刷開始コマンド文字列設定

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｐ　Ｓ　ｎ１　ｎ２　ｄａｔａ
【１０進】　９４　８０　８３　ｎｄ１　ｎｄ２　ｄａｔａｄ
【１６進】　５Ｅ　５０　５３　ｎｈ１　ｎｈ２　ｄａｔａｈ
【パラメーター】　０≦ｎ１≦２
０≦ｎ２≦９
00ｈ≦ｄａｔａｈ≦FFｈ

【解説】

・印刷開始コマンドの文字列を設定します。
（ｎ１＊１０）＋ｎ２　：文字列の長さ（１～２０まで設定可能）
ｄａｔａ　：文字列（設定可能最大文字数は２０文字（バイト））
・印刷開始コマンドのデフォルト文字列は“＾ＦＦ”です。
・このコマンドは、動的コマンドです。

【備考】

・２０文字を超える文字を設定しようとした場合は無効となります。

【例】

・印刷開始コマンド文字列を“START”に変えたい場合。
設定する文字列（ｄａｔａ）は“START”と、5文字であるため、ｎ１＝０、ｎ２＝５である。コマンドは以下のようになります。
＾　Ｐ　Ｓ　０　５　Ｓ　Ｔ　Ａ　Ｒ　Ｔ
（５Ｅｈ　５０ｈ　５３ｈ　３０ｈ　３５ｈ　５３ｈ　５４ｈ　４１ｈ　５２ｈ　５４ｈ）

＾ＰＣ 印刷開始受信文字数設定

【ＡＳＣＩＩ】	＾	Ｐ	Ｃ	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	９４	８０	６７	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	5E	５０	４３	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【パラメーター】 ０≦ｎ１≦９
０≦ｎ２≦９
０≦ｎ３≦９

【解説】

・印刷開始受信文字数を設定します。
（ｎ１＊１００）＋（ｎ２＊１０）＋ｎ３　　　　:印刷開始受信文字数
（１～９９９文字）

・印刷開始受信文字数のデフォルト値は１０です。

・このコマンドは、動的コマンドです。

・全角は２バイトで１文字、半角は１バイトで１文字扱いとします。

【例】

・印刷受信文字数を１００文字に変更する場合。ｎ１＝１、ｎ２＝０、ｎ３＝０になるため、コマンドは以下のようになります。

＾　Ｐ　Ｃ　１　０　０（５Ｅｈ　５０ｈ　４３ｈ　３１ｈ　３０ｈ　３０ｈ）

＾ＳＳ 区切り記号指定

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｓ　Ｓ　ｎ１　ｎ２　ｄａｔａ

【１０進】　９４　８３　８３　ｎｄ１　ｎｄ２　ｄａｔａｄ

【１６進】　5Ｅ　５３　５３　ｎｈ１　ｎｈ２　ｄａｔａｈ

【パラメーター】　０≦ｎ１≦２

０≦ｎ２≦９

00ｈ≦ｄａｔａｈ≦FFｈ

【解説】

・区切り記号とは、データの流し込みを、次のオブジェクトに移行したいときに使う記号。

・区切り記号の文字列を設定します。

（ｎ１＊１０）＋ｎ２　：文字列の長さ（１～２０）

ｄａｔａ　：文字列（設定可能最大文字数は２０文字（バイト））

・区切り記号のデフォルト文字列は“09ｈ(TAB コード)”です。

・印刷データ内にでてくることがない文字列を設定する必要があります。

・このコマンドは、動的コマンドです。

【備考】

・２０文字を超える文字を設定しようとした場合は無効となります。

【例】

・区切り記号を“,”（0x2C）に変えたい場合。

文字列の長さは１文字であるため、ｎ１＝０、ｎ２＝１となり、文字列（ｄａｔａｈ）は“,”（2Cｈ）で、コマンドは以下のようになります。

＾　Ｓ　Ｓ　０　１　，（５Ｅｈ　５３ｈ　５３ｈ　３０ｈ　３１ｈ　2Cｈ）

＾ＴＳ テンプレート選択設定

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｔ　Ｓ　ｎ１　ｎ２　ｎ３

【１０進】　９４　８４　８３　ｎｄ１　ｎｄ２　ｎｄ３

【１６進】　5Ｅ　５４　５３　ｎｈ１　ｎｈ２　ｎｈ３

【パラメーター】　ｎ１：０（固定）

０≦ｎ２≦９

０≦ｎ３≦９

【解説】

・本体で選択しているテンプレートを指定番号にします。

（ｎ２＊１０）＋ｎ３　：テンプレート番号（1～９９）

・本体選択番号のデフォルト値は、１です。

・このコマンドは、動的コマンドです。

【備考】

・設定可能なテンプレート番号は、１～９９である。それ以外の数値を設定しようとした場合または本体に転送されていない番号を指定した場合は無効になります。

【例】

・選択テンプレート番号を９９にする場合。

ｎ２＝9、ｎ３＝9になるため、コマンドは以下のようになります。

＾　Ｔ　Ｓ　０　９　９（5Ｅｈ　５４ｈ　５３ｈ　３０ｈ　３９ｈ　３９ｈ）

＾ＬＳ 改行時の行間設定

【ＡＳＣＩＩ】	＾	Ｌ	Ｓ	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	９４	７６	８３	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	５Ｅ	４Ｃ	５３	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【パラメーター】　０≦ｎ１≦２
　　　　　　　　　０≦ｎ２≦９
　　　　　　　　　０≦ｎ３≦９

【解説】

・改行時の行間のドット数を設定します。
　（ｎ１＊１００）＋（ｎ２＊１０）＋ｎ３　：行間ドット数（０～２５５）

・改行時の行間ドット数のデフォルト値は、P-touch Editor でテンプレートを作成したときに決められるドット数です。

・このコマンドは動的なコマンドです。

【備考】

・行間のドット数は、０～２５５ドットである。それ以外の数値を設定しようとした場合は無効になります。
　１ドット　＝　１／３００インチ
　１ドット　　　０．０８５mm

【例】

・行間を１０ドットにする場合。
　＾　Ｌ　Ｓ　０　１　０（５Ｅｈ　４Ｃｈ　５３ｈ　３０ｈ　３１ｈ　３０ｈ）

ˆＣＣ プレフィックス文字の変更

【ＡＳＣＩＩ】　　ˆ　　Ｃ　　Ｃ　　ｎ
【１０進】　　　９４　６７　６７　ｎｄ
【１６進】　　　５E　４３　４３　ｎｈ
【パラメーター】　00ｈ≦ｎｈ≦FFｈ

【解説】
・プレフィックス文字コードを変更します。
　ｎ　：文字コード
・プレフィックス文字のデフォルト文字列は“ˆ”です。
・このコマンドは、動的コマンドです。
【例】
・プレフィックス文字を、“ˆ”から“__”に変更したい場合は、下記のようにコマンドを送ります。
　ˆ　Ｃ　Ｃ　5Fｈ（５Ｅｈ　４３ｈ　４３ｈ　５Ｆｈ）
　　　　　(“__”)
　・ただしこれ以降、電源をＯＮ／ＯＦＦしないとプレフィックス文字は“__”に変更されたままのため、たとえば初期化コマンドを使用するときは、ˆＩＩではなく、__ＩＩになります。

＾ＲＣ 改行コマンド文字列設定

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｒ　Ｃ　ｎ１　ｎ２　ｄａｔａ
【１０進】　９４　８２　６７　ｎｄ１　ｎｄ２　ｄａｔａｄ
【１６進】　５Ｅ　５２　４３　ｎｈ１　ｎｈ２　ｄａｔａｈ
【パラメーター】　０≦ｎ１≦２
　０≦ｎ２≦９
　00ｈ≦ｄａｔａｈ≦FFｈ

【解説】
・改行コマンドの文字列を設定します。
　（ｎ１＊１０）＋ｎ２　：文字列の長さ（１～２０まで設定可能）
　ｄａｔａ　：文字列（設定可能最大文字数は２０文字（バイト））
・改行コマンドのデフォルト文字列は“＾ＣＲ”です。
・このコマンドは、動的コマンドです。

【備考】
・２０文字を超える文字を設定しようとした場合は無効となります。

【例】
・改行コマンド文字列を“0Dh 0Ah”に変えたい場合。
　設定する文字列（ｄａｔａ）は、２文字であるため、ｎ１＝０、ｎ２＝２
　である。コマンドは以下のようになります。
　＾　Ｒ　Ｃ　０　２　０Ｄｈ　０Ａｈ
（５Ｅｈ　５２ｈ　４３ｈ　３０ｈ　３２ｈ　０Ｄｈ　０Ａｈ）

＾ＣＮ コピー印刷枚数設定

【ＡＳＣＩＩ】	＾	Ｃ	Ｎ	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	９４	６７	７８	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	5Ｅ	４３	４Ｅ	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３
【パラメーター】	０≦ｎ１≦９					
	０≦ｎ２≦９					
	０≦ｎ３≦９					

【解説】

・コピー印刷枚数を設定します。

（ｎ１＊１００）＋（ｎ２＊１０）＋ｎ３　　　　　：コピー印刷枚数（バイト）

（１～９９９）

・コピー印刷枚数のデフォルト値は１です。

・このコマンドは、動的コマンドです。

【備考】

・印刷が終了すると、このコマンドで設定した枚数は、本体に設定されている枚数（静的値）に戻ります。

【例】

・コピー印刷枚数を１００枚に変更する場合。ｎ１＝１、ｎ２＝０、ｎ３＝０になるため、コマンドは以下のようになります。

＾　Ｃ　Ｎ　１　０　０（5Ｅh　４３h　４Ｅh　３１h　３０h　３０h）

＾ＩＩ　初期化

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｉ　Ｉ

【１０進】　９４　７３　７３

【１６進】　５Ｅ　４９　４９

【パラメーター】　なし

【解説】

・動的設定値を全て本体設定値に戻します。

１）印刷開始トリガーの選択項目

２）印刷開始コマンドの文字列

３）印刷開始受信文字数

４）区切り記号

５）テンプレート選択番号

６）プレフィックス文字

７）改行コマンド文字列

＾ＳＲ プリンターステータス要求

【ＡＳＣＩＩ】	＾	Ｓ	Ｒ
【１０進】	９４	８３	８２
【１６進】	５Ｅ	５３	５２
【パラメーター】	なし		

【解説】

・プリンターステータスが返信されます。

＾ＶＲ バージョン情報取得

【ＡＳＣＩＩ】　　＾　　Ｖ　　Ｒ

【１０進】　　　　９４　８６　８２

【１６進】　　　　５Ｅ　５６　５２

【パラメーター】　なし

【解説】

・本体のバージョン情報を１６文字の文字列で取得します。

＾ＣＲ オブジェクト内での改行

【ＡＳＣＩＩ】　　＾　　Ｃ　　Ｒ

【１０進】　　　　９４　６７　８２

【１６進】　　　　５Ｅ　４３　５２

【パラメーター】　なし

【解説】

・テキストオブジェクトで次の行に改行します。

【例】

・３行印刷させたい場合。

　１　＾　Ｃ　Ｒ　２　＾　Ｃ　Ｒ　３　＾　Ｆ　Ｆ

（３１ｈ　５Ｅｈ　４３ｈ　５２ｈ　３２ｈ　５Ｅｈ　４３ｈ　５２ｈ　３３ｈ
　５Ｅｈ　４６ｈ　４６ｈ）

　印刷結果

1 2 3

＾ＯＳ オブジェクト選択設定（オブジェクト番号）

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｏ　Ｓ　ｎ１　ｎ２
【１０進】　９４　７９　８３　ｎｄ１　ｎｄ２
【１６進】　５Ｅ　４Ｆ　５３　ｎｈ１　ｎｈ２
【パラメーター】　０≦ｎ１≦５
　０≦ｎ２≦９

【解説】
・オブジェクト番号から対象オブジェクトを選択します。
　（ｎ１＊１０）＋ｎ２　：オブジェクト番号（１～５０）

【備考】
・設定可能なオブジェクト番号は、１～50 である。それ以外の数値を設定しようとした場合は無効になります。
・途中のオブジェクトからデータを挿入したい場合にこのコマンドを使用します。

【例】
・３３オブジェクト目を選択する場合。
　＾　Ｏ　Ｓ　３　３（５Ｅｈ　４Ｆｈ　５３ｈ　３３ｈ　３３ｈ）

＾ＯＮ オブジェクト選択設定（オブジェクト名）

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｏ　Ｎ　ｄａｔａ　００
【１０進】　９４　７９　７８　ｄａｔａｄ　００
【１６進】　５Ｅ　４Ｆ　４Ｅ　ｄａｔａｈ　００
【パラメーター】　なし

【解説】
・オブジェクト名から対象オブジェクトを選択します。
　ｄａｔａ　：　文字列（オブジェクト名）

【備考】
・設定可能な文字列の最大長さは、２０バイトです。それ以上の長さを指定した時は、コマンドが無効になります。また、文字列がない時も、コマンドが無効になります。
（半角の場合１バイト、全角の場合２バイトです。）
・文字列の後ろには、００ｈをつけてください。文字列の終了を意味します。
・途中のオブジェクトからデータを挿入したい場合にこのコマンドを使用します。

【例】
・オブジェクト名が“TEXT1”のオブジェクトを選択する場合。
　＾　Ｏ　Ｎ　Ｔ　Ｅ　Ｘ　Ｔ　１　００ｈ
　（５Ｅｈ　４Ｆｈ　４Ｅｈ　５４ｈ　４５ｈ　５８ｈ　５４ｈ　３１ｈ　００ｈ）

＾ＤＩ オブジェクト直接挿入

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｄ　Ｉ　ｎ１　ｎ２　ｄａｔａ
【１０進】　９４　６８　７３　ｎｄ１　ｎｄ２　ｄａｔａｄ
【１６進】　５Ｅ　４４　４９　ｎｈ１　ｎｈ２　ｄａｔａｈ
【パラメーター】　00ｈ≦ｎｈ１≦FFｈ
　00ｈ≦ｎｈ２≦FEｈ

【解説】

・選択されているテンプレートの選択されているオブジェクトに指定文字数分、文字列を挿入します。（途中に印刷コマンド、区切り記号がきても、指定文字数内ならデータとして扱います）

（ｎｈ２＊２５６）＋ｎｈ１　：指定文字数（バイト）
ｄａｔａ　：文字列

【例】

・Ａが印刷開始文字列に設定されていて、印刷開始トリガーを印刷開始文字列に設定してある場合、手軽にＡを印刷したい場合に、下記のコマンドで印刷を実行します。

＾　Ｄ　Ｉ　０３ｈ　００ｈ　１　Ａ　２　Ａ
（５Ｅｈ　４４ｈ　４９ｈ　０３ｈ　００ｈ　３１ｈ　４１ｈ　３２ｈ　４１ｈ）

印刷結果

１Ａ２

ＥＳＣ　ｉａ　コマンドモード設定

【ＡＳＣＩＩ】　ＥＳＣ　ｉ　ａ　ｎ
【１０進】　２７　１０５　９７　ｎｄ
【１６進】　１Ｂ　６９　６１　ｎｈ
【パラメーター】　ｎｈ＝00ｈ 01ｈ 03ｈ 30ｈ 31ｈ 33ｈ

【解説】

・コマンドモードの切り替えをします。

ｎｈ＝00ｈまたは30ｈ　：ＥＳＣ／Ｐモード（デフォルト）
ｎｈ＝01ｈまたは31ｈ　：ラスターモード
ｎｈ＝03ｈまたは33ｈ　：P-touch Template モード

・このコマンドは、動的コマンドです。

【備考】

設定可能値以外の値を設定しようとすると、ラスターモードになります。

ＥＳＣ　ｉＸＴ２　印刷開始トリガー選択の設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｔ	２	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	２７	１０５	８８	８４	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	５４	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【パラメーター】　ｎｈ１　＝　01ｈ（固定）
ｎｈ２　＝　00ｈ（固定）
00ｈ≦ｎｈ3≦02ｈ

【解説】

・印刷開始トリガーの種類を選択します。
ｎｈ３＝00ｈ　：設定されている文字列受信時（デフォルト）
ｎｈ３＝01ｈ　：全てのオブジェクトが埋まったとき
（最後のデータ後の区切り記号で印刷）
ｎｈ３＝02ｈ　：設定されている文字数受信時
（区切り記号は、含まれない）

・このコマンドは、静的コマンドです。

【備考】

・ｎｈ3が00ｈ～02ｈ以外の値の場合は無効になります。

【例】

・印刷開始トリガーを“全てのオブジェクトが埋まったとき”にする場合。
ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｔ　２　０１ｈ　００ｈ　０１ｈ
（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　５４ｈ　３２ｈ　０１ｈ　００ｈ　０１ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸＰ２　印刷開始コマンド文字列設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｐ	２	ｎ１	ｎ２	ｄａｔａ
【１０進】	２７	１０５	８８	８０	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｄａｔａｄ
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	５０	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｄａｔａｈ

【パラメーター】　01ｈ≦ｎｈ１≦14ｈ
ｎｈ２：00ｈ（固定）
00ｈ≦ｄａｔａｈ≦FFｈ

【解説】

・印刷開始コマンドの文字列を設定します。

ｎｈ１＋(ｎｈ２＊２５６)：文字列の長さ（１～２０まで設定可能）

ｄａｔａ　：文字列（設定可能最大文字数は２０文字（バイト））

・印刷開始コマンドのデフォルト文字列は“＾ＦＦ”です。

・このコマンドは、静的コマンドです。

【備考】

・２０文字を超える文字を設定しようとした場合は無効となります。

【例】

・印刷開始コマンド文字列を“START”に変えたい場合。

設定する文字列（ｄａｔａ）は“START”と、5文字であるため、ｎｈ１＝05ｈ、ｎｈ２＝00ｈである。コマンドは以下のようになります。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｐ　２　０５ｈ　００ｈ　Ｓ　Ｔ　Ａ　Ｒ　Ｔ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　５０ｈ　３２ｈ　０５ｈ　００ｈ　５３ｈ　５４ｈ　４１ｈ　５２ｈ　５４ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸｒ２　印刷開始受信文字数設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｒ	２	ｎ１	ｎ２	ｎ３	ｎ４
【１０進】	２７	１０５	８８	１１４	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３	ｎｄ４
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	７２	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３	ｎｈ４

【パラメーター】　ｎｈ１：02ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

00ｈ≦ｎｈ３≦FFｈ

00ｈ≦ｎｈ４≦03ｈ

【解説】

・印刷開始受信文字数を設定します。

ｎｈ３＋（ｎｈ４＊２５６）　　：印刷開始受信文字数（バイト）（１～９９９）

・印刷開始受信文字数のデフォルト値は１０です。

・このコマンドは、静的コマンドです。

【例】

・印刷受信文字数を１００文字に変更する場合。ｎｈ３＝64ｈ、ｎｈ４＝00ｈになるため、コマンドは以下のようになります。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｒ　２　０２ｈ　００ｈ　６４ｈ　００ｈ

（1Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　７２ｈ　３２ｈ　０２ｈ　００ｈ　６４ｈ　００ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸＤ２　区切り記号指定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｄ	２	ｎ１	ｎ２	ｄａｔａ
【１０進】	２７	１０５	８８	６８	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｄａｔａｄ
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	４４	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｄａｔａｈ

【パラメーター】　01ｈ≦ｎｈ１≦14ｈ
ｎｈ２：00ｈ（固定）
00ｈ≦ｄａｔａｈ≦FFｈ

【解説】

・区切り記号とは、データの流し込みを、次のオブジェクトに移行したいときに使う記号。

・区切り記号の文字列を設定します。
ｎｈ１＋（ｎｈ２＊２５６）　：文字列の長さ（１～２０）
ｄａｔａ　：文字列（設定可能最大文字数は２０文字（バイト））

・区切り記号のデフォルト文字列は“09ｈ(TAB コード)”です。

・このコマンドは、静的コマンドです。

【備考】

・２０文字を超える文字を設定しようとした場合は無効となります。

【例】

・区切り記号を，（2Cｈ）に変えたい場合。
文字列の長さは１文字で、ｎｈ１＝01ｈ、ｎｈ２＝00ｈとなり、文字列（ｄａｔａｈ）は“,”（2Cｈ）で、コマンドは以下のようになります。
ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｄ　２　０１ｈ　００ｈ　２Ｃｈ
（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　４４ｈ　３２ｈ　０１ｈ　００ｈ　２Ｃｈ）

ＥＳＣ　ｉＸａ２　読み捨て文字列設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ａ	２	ｎ１	ｎ２	ｎ３	ｄａｔａ
【１０進】	２７	１０５	８８	９７	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３	ｄａｔａｄ
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６１	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３	ｄａｔａｈ

【パラメーター】　01ｈ≦ｎｈ１≦15ｈ
　　　　　　　　ｎｈ２：00ｈ（固定）
　　　　　　　　ｎｈ３：01ｈ（固定）
　　　　　　　　00ｈ≦ｄａｔａｈ≦FFｈ

【解説】

・読み捨て文字列を設定します。
　ｎｈ１＋（ｎｈ２＊２５６）　　：文字列の長さ（０～２０）＋１
　ｄａｔａ　　　　　　　　　　　：文字列（設定可能最大文字数は２０文字（バイト））

・このコマンドは、静的コマンドです。

【備考】

・２０文字を超える文字を設定しようとした場合は無効となります。

【例】

・読み捨て文字列を、“ＡＢＣＤ”にしたい場合。
　文字列の長さは４文字で、ｎｈ１＝05ｈ、ｎｈ２＝00ｈとなり、コマンドは以下のようになります。
　ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ａ　２　０５ｈ　００ｈ　０１ｈ　Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ
（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６１ｈ　３２ｈ　０５ｈ　００ｈ　０１ｈ　４１ｈ
　４２ｈ　４３ｈ　４４ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸｉ２　コマンドモード設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｉ	２	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	２７	１０５	８８	１０５	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６９	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【パラメーター】　ｎｈ１：01ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

ｎｈ３：00ｈ 01ｈ 03ｈ

【解説】

・コマンドモードの切り替えをします。

ｎｈ３＝00ｈ　：ＥＳＣ／Ｐモード（デフォルト）

ｎｈ３＝01ｈ　：ラスターモード

ｎｈ３＝03ｈ　：P-touch Template モード

・このコマンドは、静的コマンドです。

【備考】

設定可能値以外の値を設定しようとすると、無効になります。

ＥＳＣ　ｉＸｎ２ テンプレート選択設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｎ	２	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	２７	１０５	８８	１１０	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６Ｅ	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【パラメーター】　ｎｈ１：01ｈ（固定）
ｎｈ２：00ｈ（固定）
01ｈ≦ｎｈ３≦63ｈ

【解説】

・本体で選択しているテンプレートを指定番号にします。
　ｎ３　：テンプレート番号（１～９９）
・本体選択番号のデフォルト値は、１です。
・このコマンドは、静的コマンドです。

【備考】

・設定可能なテンプレート番号は、１～９９である。それ以外の数値を設定しようとした場合または、本体に転送されていない番号を指定した場合は無効になります。

【例】

・選択テンプレート番号を９９にする場合。
　ｎｈ３＝63ｈになるため、コマンドは以下のようになります。
　ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｎ　２　０１ｈ　００ｈ　６３ｈ
（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６Ｅｈ　３２ｈ　０１ｈ　００ｈ　６３ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸｆ２ プレフィックス文字の変更

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｆ	２	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	２７	１０５	８８	１０２	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６６	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【パラメーター】　ｎｈ１：01ｈ（固定）
ｎｈ２：00ｈ（固定）
00ｈ≦ｎｈ３≦FFｈ

【解説】

・プレフィックス文字コードを変更します。
　ｎ３　：文字コード
・プレフィックス文字のデフォルト文字列は“＾”です。
・このコマンドは、静的コマンドです。

【例】

・プレフィックス文字を、“＿”に変更したい場合。
　ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｆ　２　０１ｈ　００ｈ　５Ｆｈ（“＿”）
（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６６ｈ　３２ｈ　０１ｈ　００ｈ　５Ｆｈ）

ＥＳＣ　ｉＸｊ２ 国際文字設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｊ	２	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	２７	１０５	８８	１０６	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６Ａ	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【パラメーター】　ｎｈ１：01ｈ（固定）
ｎｈ２：00ｈ（固定）
00ｈ≦ｎｈ3≦0Dｈ、40ｈ

【解説】

・各国別の文字セットを選択し、ｎｈ３の値によりコード表の一部文字コードが切替わります。

ｎｈ３＝00ｈ　：ＵＳＡ
ｎｈ３＝01ｈ　：フランス
ｎｈ３＝02ｈ　：ドイツ
ｎｈ３＝03ｈ　：イギリス
ｎｈ３＝04ｈ　：デンマーク
ｎｈ３＝05ｈ　：スウェーデン
ｎｈ３＝06ｈ　：イタリア
ｎｈ３＝07ｈ　：スペイン
ｎｈ３＝08ｈ　：日本
ｎｈ３＝09ｈ　：ノルウェー
ｎｈ３＝0Aｈ　：デンマークⅡ
ｎｈ３＝0Bｈ　：スペインⅡ
ｎｈ３＝0Cｈ　：ラテンアメリカ
ｎｈ３＝0Dｈ　：韓国
ｎｈ３＝40ｈ　：リーガル

・切替わるコードは、以下の１２コードです。

23ｈ　24ｈ　40ｈ　5Bｈ　5Cｈ　5Dｈ　5Eｈ　60ｈ　7Bｈ　7Cｈ　7Dｈ　7Eｈ
（切り替わる文字に関しては、国際文字セット表を参照ください）

・初期設定は、＜海外＞ｎｈ３＝00ｈ（ＵＳＡ）、＜日本＞ｎｈ３＝08ｈ（日本）。

・このコマンドは、静的コマンドです。

【例】

・国際文字設定を日本に変える場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｊ　２　０１ｈ　００ｈ　０８ｈ
（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６Ａｈ　３２ｈ　０１ｈ　００ｈ　０８ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸＲ２　改行コマンド文字列設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｒ	２	ｎ１	ｎ２	ｄａｔａ
【１０進】	２７	１０５	８８	８２	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｄａｔａｄ
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	５２	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｄａｔａｈ

【パラメーター】　01ｈ≦ｎｈ１≦14ｈ
ｎｈ２：00ｈ（固定）
00ｈ≦ｄａｔａｈ≦FFｈ

【解説】

・改行コマンドの文字列を設定します。
ｎｈ１＋(ｎｈ２＊２５６）：文字列の長さ（１～２０まで設定可能）
ｄａｔａ　：文字列（設定可能最大文字数は２０文字（バイト)）

・改行コマンドのデフォルト文字列は“＾ＣＲ”です。

・このコマンドは、静的コマンドです。

【備考】

・２０文字を超える文字を設定しようとした場合は無効。

【例】

・印刷開始コマンド文字列を“０Ｄｈ　０Ａｈ”に変えたい場合。
設定する文字列（ｄａｔａ）は、２文字であるため、ｎｈ１＝02ｈ、
ｎｈ２＝00ｈである。コマンドは以下のようになります。
ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｒ　２　０２ｈ　００ｈ　０Ｄｈ　０Ａｈ
（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　５２ｈ　３２ｈ　０２ｈ　００ｈ　０Ｄｈ　０Ａｈ）

ＥＳＣ　ｉＸＣ２　コピー印刷枚数設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｃ	２	ｎ１	ｎ２	ｎ３	ｎ４
【１０進】	２７	１０５	８８	６７	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３	ｎｄ４
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	４３	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３	ｎｈ４

【パラメーター】　ｎｈ１：02ｈ（固定）
ｎｈ２：00ｈ（固定）
00ｈ≦ｎｈ３≦FFｈ
00ｈ≦ｎｈ４≦03ｈ

【解説】

・コピー印刷枚数を設定します。
ｎｈ３＋（ｎｈ４＊２５６）　　　：コピー印刷枚数（バイト）（１～９９９）

・コピー印刷枚数のデフォルト値は１です。

・このコマンドは、静的コマンドです。

【例】

・コピー印刷枚数を１００文字に変更する場合。ｎｈ３＝64ｈ、ｎｈ４＝00ｈになるため、コマンドは以下のようになります。
ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｃ　２　０２ｈ　００ｈ　６４ｈ　００ｈ
（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　４３ｈ　３２ｈ　０２ｈ　００ｈ　６４ｈ　００ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸＴ１　印刷開始トリガー選択項目取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｔ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	８４	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	５４	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【パラメーター】　ｎｈ１　＝　00ｈ（固定）
　　　　　　　　　ｎｈ２　＝　00ｈ（固定）

【解説】

・印刷開始トリガーを３バイトのデータで返信します。

[1]：01ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3]：設定値

00ｈ　：設定されている文字列受信時

01ｈ　：全てのオブジェクトが埋まったとき

02ｈ　：設定されている文字数受信時

・取得値は、静的コマンドで設定した値です。

【例】

・本体に設定されている、印刷開始トリガーを取得します。設定値が、設定されている文字列受信時の場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｔ　１　００ｈ　００ｈ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　５４ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）

本体からは、０１ｈ　００ｈ　００ｈが返信されます。

ＥＳＣ　ｉＸＰ１　印刷開始コマンド設定文字列取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｐ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	８０	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	５０	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【パラメーター】　ｎｈ１：00ｈ（固定）
ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・印刷開始コマンドの設定文字列を取得します。
・本体から、３～２２バイトのデータが返信されます。（文字列の長さにより変化します）
[1、2]：ｎｈ１　ｎｈ２（文字数）　ｎｈ１＋（ｎｈ２＊２５６）
[3 以降]：文字列
・取得値は、静的コマンドで設定した値です。

【例】

・印刷開始コマンド文字列を“START”に設定している場合。
ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｐ　１　００ｈ　００ｈ（1Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　５０ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）のコマンドを送信すると、　本体からは、０５ｈ　００ｈ　Ｓ　Ｔ　Ａ　Ｒ　Ｔ（０５ｈ　００ｈ　５３ｈ　５４ｈ　４１ｈ　５２ｈ　５４ｈ）と返信されます。

ＥＳＣ　ｉＸｒ１　印刷開始受信文字数取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｒ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	１１４	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	７２	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【パラメーター】　ｎｈ１：00ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・印刷開始受信設定文字数を取得します。

・本体からは、４バイトのデータが返信されます。

[1]：02ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3、4]：ｎｈ３　ｎｈ４設定値

ｎｈ３＋（ｎｈ４＊２５６）　　：印刷開始受信文字数

・取得値は、静的コマンドで設定した値です。

【例】

・印刷受信文字数が５００文字の場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｒ　１　００ｈ　００ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　７２ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）のコマンドを本体に送信すると、０２ｈ　００ｈ　Ｆ４ｈ　０１ｈが返信されます。244(F4ｈ)+(1(01ｈ)＊256)=500 文字です。

ＥＳＣ ｉＸＤ１ 区切り記号取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｄ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	６８	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	４４	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【パラメーター】 ｎｈ１：00ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・区切り記号の設定文字列を取得します。

・本体から、３～２２バイトのデータが返信されます。(文字列の長さにより変化します)

[1、2]：ｎｈ１ ｎｈ２（文字数） ｎｈ１＋（ｎｈ２＊２５６）

[3 以降]：文字列

・取得値は、静的コマンドで設定した値です。

【例】

・区切り記号を，（2Cｈ）に設定している場合。

ＥＳＣ ｉ Ｘ Ｄ １ ００ｈ ００ｈ（１Ｂｈ ６９ｈ ５８ｈ ４４ｈ ３１ｈ ００ｈ ００ｈ）のコマンドを本体に送信します。

本体からは、０１ｈ ００ｈ ，（０１ｈ ００ｈ ２Ｃｈ）が返信されます。

ＥＳＣ　ｉＸａ１　読み捨て設定文字列取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ａ	１	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	２７	１０５	８８	９７	４９	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６１	３１	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【パラメーター】　ｎｈ１：01ｈ（固定）
ｎｈ２：00ｈ（固定）
ｎｈ３：01ｈ（固定）

【解説】

・読み捨て設定文字列を取得します。
・本体から、２～２２バイトのデータが返信されます。（文字列の長さにより変化します）
[1、2]：ｎｈ１　ｎｈ２（文字数）　ｎｈ１＋（ｎｈ２＊２５６）
[3 以降]：文字列
・取得値は、静的コマンドで設定した値です。

【例】

・読み捨て文字列が、“ＡＢＣＤ”の場合。
本体に以下のコマンドを送信します。
ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ａ　１　０１ｈ　００ｈ　０１ｈ
（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６１ｈ　３１ｈ　０１ｈ　００ｈ　０１ｈ）
本体からは、以下のように返信されます。
０４ｈ　００ｈ　Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ（０４ｈ　００ｈ　４１ｈ　４２ｈ　４３ｈ　４４ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸｉ１　コマンドモード設定値取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｉ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	１０５	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６９	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【パラメーター】　ｎｈ１：00ｈ（固定）
　　　　　　　　　ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・コマンドモードの設定値を取得します。

・本体からは、３バイトのデータが返信されます。

[1]：01ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3]：設定値

00ｈ　：ＥＳＣ／Ｐモード

01ｈ　：ラスターモード

03ｈ　：P-touch Template モード

・取得値は、静的コマンドで設定した値です。

【例】

設定値をラスターモードにしてある場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｉ　１　００ｈ　００ｈ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６９ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）

本体からは、以下のように返信されます。

０１ｈ　００ｈ　０１ｈ

ＥＳＣ　ｉＸｎ１ テンプレート選択番号取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｎ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	１１０	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６Ｅ	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【パラメーター】　ｎｈ１：00ｈ（固定）
　　　　　　　　　ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・本体で選択しているテンプレート番号を取得します。

・本体からは、３バイトのデータが返信されます。

[1]：01ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3]：設定値

・取得値は、静的コマンドで設定した値です。

【例】

・選択テンプレート番号が９９の場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｎ　１　００ｈ　００ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６Ｅｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）と本体に送ると、本体からは以下のように返信されます。

０１ｈ　００ｈ　６３ｈ

ＥＳＣ　ｉＸｊ１ 国際文字設定値取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｊ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	１０６	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６Ａ	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【パラメーター】　ｎｈ１：00ｈ（固定）
　　　　　　　　　ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・国際文字設定値を取得します。

・本体からは、３バイトのデータが返信されます。

[1]：01ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3]：設定値

00ｈ　：ＵＳＡ
01ｈ　：フランス
02ｈ　：ドイツ
03ｈ　：イギリス
04ｈ　：デンマーク
05ｈ　：スウェーデン
06ｈ　：イタリア
07ｈ　：スペイン
08ｈ　：日本
09ｈ　：ノルウェー
0Aｈ　：デンマークⅡ
0Bｈ　：スペインⅡ
0Cｈ　：ラテンアメリカ
0Dｈ　：韓国
40ｈ　：リーガル

・取得値は、静的コマンドで設定した値です。

【例】

・国際文字設定を＜日本＞にしている場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｊ　１　００ｈ　００ｈ（1Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６Ａｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）のコマンドを本体に送信すると、本体からは以下のように返信されます。０１ｈ　００ｈ　０８ｈ

ＥＳＣ　ｉＸｆ１ プレフィックス文字の取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｆ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	１０２	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６６	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【パラメーター】　ｎｈ１：00ｈ（固定）
　　　　　　　　　ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・プレフィックス文字コードを取得します。

・本体からは、３バイトのデータが返信されます。

[1]：01ｈ（固定）
[2]：00ｈ（固定）
[3]：設定文字

・取得値は、静的コマンドで設定した値です。

【例】

・プレフィックス文字を、“＿”に設定している場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｆ　１　００ｈ　００ｈ（1Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６６ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）を本体に送信すると、本体からは以下のように返信されます。

０１ｈ　００ｈ　５Ｆｈ
（“＿”）

ＥＳＣ　ｉＸＲ１　改行コマンド設定文字列取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｒ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	８２	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	５２	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【パラメーター】　ｎｈ１：00ｈ（固定）
ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・改行コマンドの設定文字列を取得します。

・本体から、２～２２バイトのデータが返信されます。(文字列の長さにより変化します)

[1、2]：ｎｈ１　ｎｈ２（文字数）　ｎｈ１＋（ｎｈ２＊２５６）

[3 以降]：文字列

・取得値は、静的コマンドで設定した値です。

【例】

・改行コマンド文字列を“０Ｄｈ　０Ａｈ”に設定している場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｒ　１　００ｈ　００ｈ（1Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　５２ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）のコマンドを送信すると、 本体からは、０２ｈ　００ｈ　０Ｄｈ　０Ａｈと返信されます。

ＥＳＣ　ｉＸＣ１　コピー印刷枚数設定値取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｃ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	６７	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	４３	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【パラメーター】　ｎｈ１：00ｈ（固定）
ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・コピー印刷設定枚数を取得します。

・本体からは、４バイトのデータが返信されます。

[1]：02ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3、4]：ｎｈ３　ｎｈ４設定値

ｎｈ３＋（ｎｈ４＊２５６）　　：印刷開始受信文字数

・取得値は、静的コマンドで設定した値です。

【例】

・コピー印刷設定枚数が５００文字の場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｃ　１　００ｈ ００ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　４３ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）のコマンドを本体に送信すると、０２ｈ　００ｈ　Ｆ４ｈ　０１ｈが返信されます。244(F4ｈ)+(1(01ｈ)＊256)=500 文字です。

文字コード

日本 文字コード表

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0			SP	0	@	P	`	p	_		SP	ー	タ	ミ		
1			!	1	A	Q	a	q			。	ア	チ	ム		
2			”	2	B	R	b	r			「	イ	ツ	メ		
3			#	3	C	S	c	s			」	ウ	テ	モ		
4			$	4	D	T	d	t			、	エ	ト	ヤ		
5			%	5	E	U	e	u			・	オ	ナ	ユ		
6			&	6	F	V	f	v			ヲ	カ	ニ	ヨ		
7			’	7	G	W	g	w			ァ	キ	ヌ	ラ		
8			(	8	H	X	h	x			ィ	ク	ネ	リ		
9			)	9	I	Y	i	y			ゥ	ケ	ノ	ル		
A			*	:	J	Z	j	z			ェ	コ	ハ	レ		
B			+	;	K	[	k	{			ォ	サ	ヒ	ロ		
C			,	<	L	¥	l	|			ャ	シ	フ	ワ		
D			-	=	M	]	m	}			ュ	ス	ヘ	ン		
E			.	>	N	^	n	~			ョ	セ	ホ	゛		
F			/	?	0	_	o	DEL			ッ	ソ	マ	゜		

“■” は、国際文字セットを切り替えると文字コードが切り替わります。

国際文字セット表

n		23	24	40	5B	5C	5D	5E	60	7B	7C	7D	7E
0	United States	#	$	@	[	\	]	^	`	{	¦	}	~
1	France	#	$	à	°	ç	§	^	`	é	ù	è	¨
2	Germany	#	$	§	Ä	Ö	Ü	^	`	ä	ö	ü	ß
3	Britain	£	$	@	[	\	]	^	`	{	¦	}	~
4	Denmark I	#	$	@	Æ	Ø	Å	^	`	æ	ø	å	~
5	Sweden	#	¤	É	Ä	Ö	Å	Ü	é	ä	ö	å	ü
6	Italy	#	$	@	°	\	é	^	ù	à	ò	è	ì
7	Spain I	Pt	$	@	¡	Ñ	¿	^	`	¨	ñ	}	~
8	Japan	#	$	@	[	¥	]	^	`	{	¦	}	~
9	Norway	#	¤	É	Æ	Ø	Å	Ü	é	æ	ø	å	ü
10	Denmark II	#	$	É	Æ	Ø	Å	Ü	é	æ	ø	å	ü
11	Spain II	#	$	á	¡	Ñ	¿	é	`	í	ñ	ó	ú
12	Latin America	#	$	á	¡	Ñ	¿	é	ü	í	ñ	ó	ú
13	Korea	#	$	@	[	₩	]	^	`	{	¦	}	~
64	Legal	#	$	§	°	´	"	¶	`	©	®	†	™